

14.5

173

労働保護資料 第6輯
震災ノ工場ニ及ボシタル被害並影響
社会局

国立国会図書館



始



8

27F4



勞働保護資料第六輯
大正十三年六月

震災ノ工場ニ及ホシタル被害並影響

社
會
局

貴族院
函
号
冊

貴族院
函
号
冊

145
173



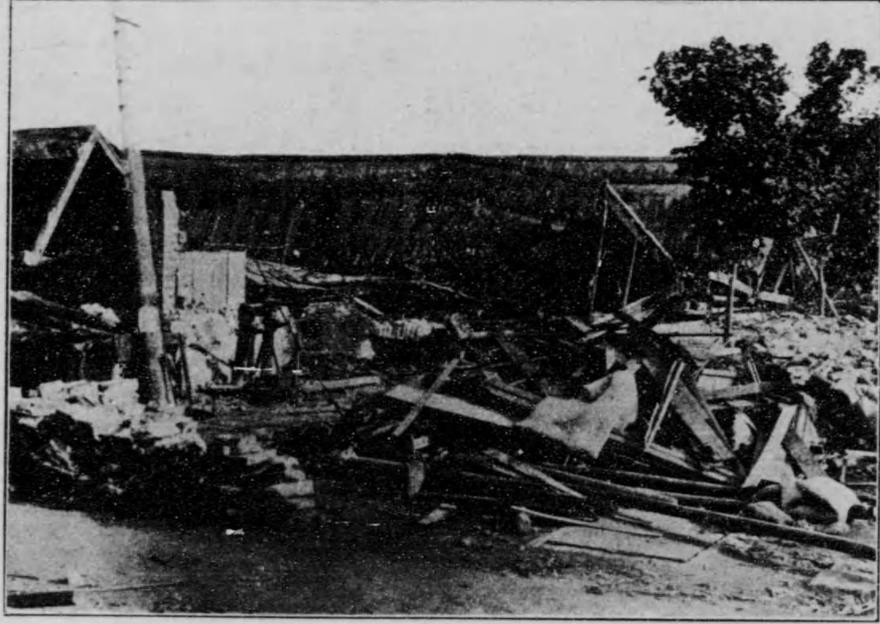
81W14487

凡 例

本書ハ大正十二年九月一日關東地方ニ於ケル震災ノ工場法適用工場ニ及ホシタル被害及影響ニ付調査輯録シタルモノナリ

- 一、東京府ニ於ケル被害ニ付テハ工場臺帳ノ焼失工業主ノ行方不明等ノ爲全般ニ亘リ其ノ詳細ヲ知ルコト得サリシヲ以テ職工五十人以上ヲ使用スル工場ニ對シ調査ヲ爲シタリ
 - 一、影響調査ニ關シテハ計數的報告ヲ缺クモノアリテ統計ノ正鵠ヲ得サリシモ例示ヲ舉ケ此ノ大綱ヲ知ルニ努メタリ
 - 一、工場ノ廢止又休止竝増新設ノ如キ直接震災ノ影響ト認メ難キモノナキニ非サルモ依テ以テ大勢ヲ觀察スルニ足ルヘシ
 - 一、就業時間ノ延長、夜業ノ開始又ハ休日廢止ノ如キハ勞働保護上寧ロ惡影響ニ屬スヘキモノナルモ經濟上産業上ノ見地ヨリ須ク之ヲ好影響ノ章中ニ於テ記述セリ
- 大正十三年六月

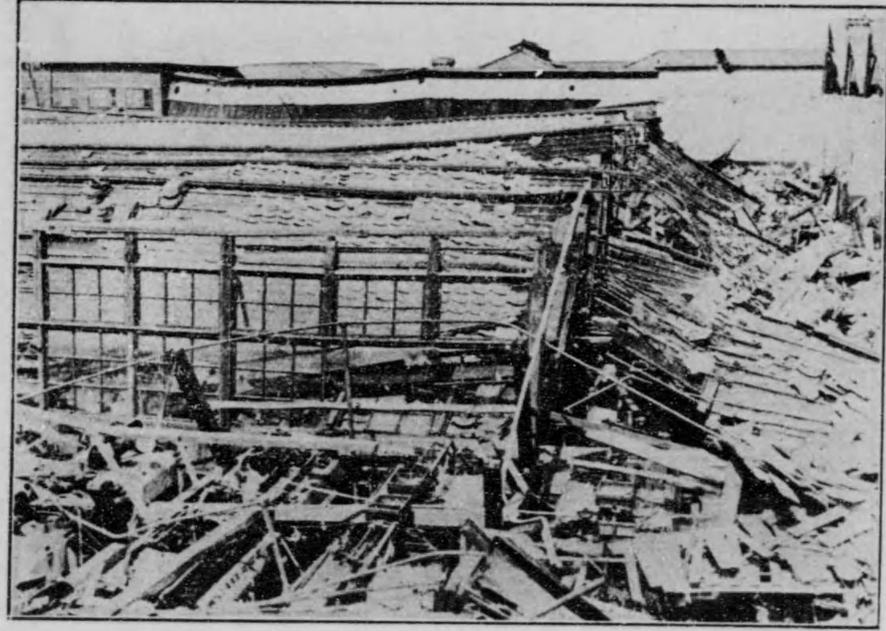
社 會 局



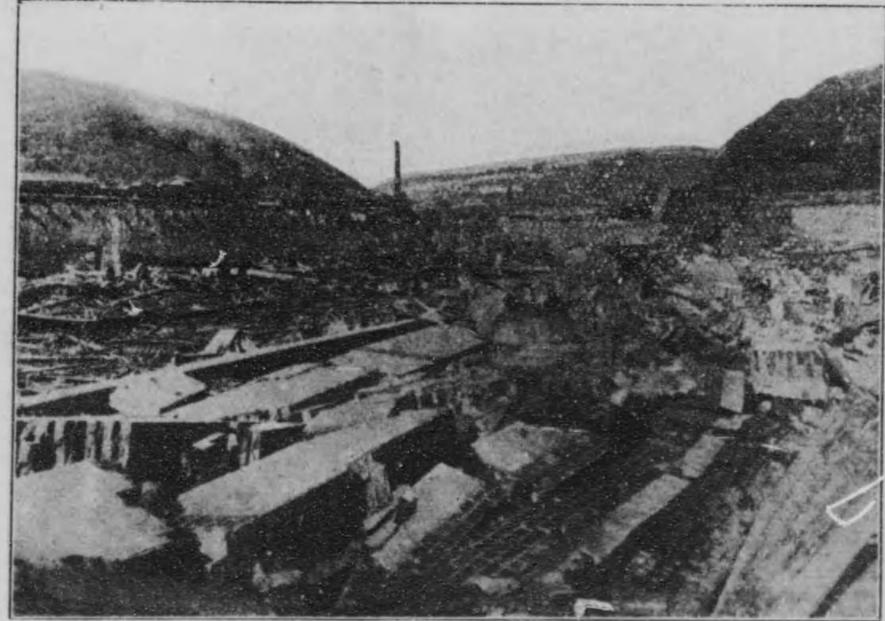
在川崎
富士瓦斯紡績株式會社工場
第一工場(煉瓦造)北西隅



在川崎町
富士瓦斯紡績株式會社工場
第二工場(煉瓦造)北側

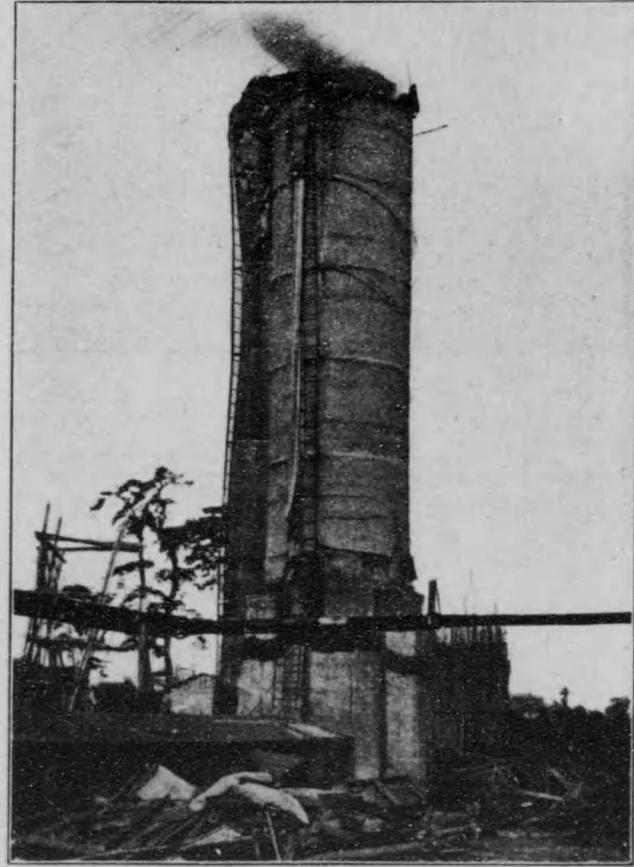
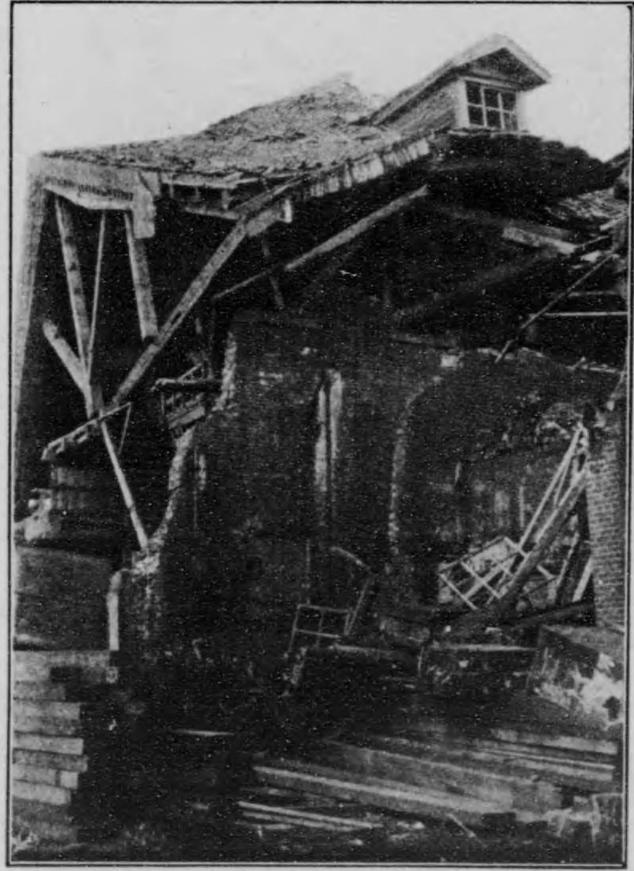


在吾嬭町
東京モスリン株式會社
第二工場第三織機室



在小山町
富士瓦斯紡績株式會社
第四工場リソク室燒跡

在王子町
印刷局工場抄紙部



在川崎町
富士瓦斯紡績株式會社工場煙突
(鐵筋コンクリート造)

震災ノ工場ニ及ホシタル被害並影響

目次

前編 被害ト建築

總說

第一

東京府ニ於ケル被害

九

第二

神奈川県ニ於ケル被害

一八

第三

千葉縣ニ於ケル被害

二四

第四

静岡縣ニ於ケル被害

二七

第五

埼玉縣ニ於ケル被害

三一

第六

震災ト工場建築

三五

第七

附錄 震災ニ因ル官營工場ニ於ケル職工救濟扶助狀況

六五

後編 震災ニ因ル工場ノ影響

第一總說

七一



第二 惡影響……………七八

一 廢止又ハ休業……………七九

二 事業ノ縮少……………九四

三 職工ノ解雇……………九五

四 生産品ノ損害……………一〇〇

第三 好影響……………一〇二

一 工場ノ新設及増設又ハ擴張……………一〇二

二 時間延長、夜業開始、休日廢止等……………一〇六

第四 職工移動狀況……………一二〇

第五 職工賃金騰落狀況……………一三〇

前編 被害ト建築

第一 總 說

大正十二年九月一日ノ大震災ハ其ノ慘禍ノ及フ所廣ク東京、神奈川、静岡、埼玉、千葉、山梨、茨城ノ一府六縣ニ亘リ多數民家ヲ灰燼ニ歸セシメ幾多貴重ナル生命ヲ奪ヒタルノ悲惨事ハ遍ク人ノ知ル所ナルカ之等被害地ハ關東地方ニ於ケル工場地帯ヲ包含スルヲ以テ工場ノ燒失倒潰セルモノ尠カラズ職工ノ生命ヲ閉セルモノ亦其ノ數頗ル多キニ上ル

工場法適用工場ノ震災被害調査ニ關シテハ工業主ノ行方不明ノ爲調査不能ノモノアリ又各府縣ニ統一的調査ナキヲ以テ正確ナル統計的觀察ヲナシ被害ノ大小ヲ彼此對照スルヲ得スト雖茲ニハ大正十二年十一月末日迄ニ於ケル諸種ノ調査及報告ヲ綜合シテ別表ヲ作成セリ固ヨリ完璧ヲ期シ難シト雖工場被害ノ概況ヲトスルニ足ルヘシ

今罹災地ニ於ケル工場法適用工場中被害ヲ蒙リタルモノヲ府縣別ニ示セハ左表ノ如シ

府縣別	全燒	半燒	全潰	半潰	流失	小破損	計	工場數ニ對スル被害割合
東京府	二〇三	九	二〇	一三二	一	一三二	四九五	〇、九一

特別工場	一三	四
合計	一、二六七	一九七、三〇二

備考 一、東京府ニ於ケル被害工場ハ職工五十人以上ヲ使用セルモノニ付調査セルモノトス
二、職工數ハ震災當日ノモノニ付集計シタルモノトス

被害工場ニ於テ自己ノ申出ニヨリ退職シタルモノ及他工場へ轉勤セシメラレタル者ヲ除キ特ニ震災ニ因リ解雇セラレタル職工ノミニ付調査スルニ左ノ如キ結果ヲ得タリ

府縣別	解雇職工數	被害工場職工數	被害工場ノ職工數ニ對スル解雇職工ノ割合
東京	一五、九一〇	一一五、八一四	〇、一四
神奈川	一五、五一四	四九、三四四	〇、三一
千葉	六四	三、九二九	〇、〇二
静岡	二、二三五	一五、二〇八	〇、一五
埼玉	三〇三	一三、〇三三	〇、〇二
合計	八、八五七	一四七、九八四	〇、一二

備考

- 一、東京府ニ於テハ職工五十人以上使用セル工場ニ付調査セルモノトス
- 二、神奈川縣ニ關スル數字ハ解雇職工ノ外ニ申出ニヨリ退職セルモノヲ含ム
- 三、合計欄ハ神奈川縣ヲ除キテ集計セルモノヲ掲ク

即東京府、神奈川縣（眞意義ニ於ケル解雇職工數不明ナルモ他縣ニ比シ多キコト疑ヲ容レス）静岡縣等ニ於テ其ノ數多キヲ見ル

職工解雇ノ趨勢ヲ工場別ニ觀ルニ多數ノ解雇職工ヲ出セルハ機械器具工場トス即之ヲ東京府ニ付テ見レハ同工場ニ於テ解雇セラレタルモノ六千九百二十四人ニシテ總解雇職工數ノ四割四分ニ當リ神奈川縣ニ於テモ略々之ト同様ノ現象ヲ見ル染織工場ニ於ケル解雇職工ハ東京府ニ於テ少ナキニ不拘（總解雇職工數ノ一割）神奈川、静岡ノ諸縣ニ在リテハ頗ル多キニ上リ殊ニ静岡縣ニ於ケル解雇職工ハ全部同工場ヨリ出タセルモノトス

震災ニ因ル職工ノ死傷者ハ左表ニ示ス如ク東京府、神奈川縣、静岡縣等ニ於テ其ノ數多キヲ見ル殊ニ神奈川縣ニ於ケル死傷者ハ合計二千四百五十四人ノ多キニ達シ死傷職工總數ノ五割七分ヲ含ム
死亡者ハ負傷者ニ比シ其ノ數少ナキハ多クノ場合ニ見ル所ナルカ神奈川縣静岡縣等ニ在リテハ死亡者數遙ニ負傷者數ニ超過セルヲ見ル

府別縣	死亡者數	負傷者數	計
東京府	六六四	八七三	一、五三七
神奈川県	一、三八三	一、〇七一	二、四五四
静岡県	一一三	七一	一九四
千葉縣	一六	一六	三二
埼玉縣	一四	五五	六九
合計	二、一〇〇	二、〇八六	四、二八六

六

備考 東京府ニ於ケル死傷者數ハ職工五十人以上ヲ使用スル工場ニツキ調査セルモノトス
 死傷者ヲ工場別ニ觀察スレハ染織工場ニ於テ其ノ數著シキモノアリ機械器具工場之ニ次ケリ、即東京府ニ於テハ死傷職工ノ五割六分ハ染織工場ノ占ムル所ニシテ、神奈川県ニアリテハ七割七分静岡縣ニアリテハ九割八分ハ實ニ染織工場ノ占ムル所ナリ、而シテ染織工場中紡績工場ニシテ倒壊ノ厄ニ遭ヘルモノ頗ル多キニ上ルヲ以テ死傷職工ノ大半ハ紡績工場ヨリ出テタルモノト云フヲ得ヘシ、今五十名以上ノ死亡者ヲ出セル工場ヲ列舉スレハ左表ノ示ス如シ

工場名	死亡者數	負傷者數
-----	------	------

富士瓦斯紡績株式會社保土ヶ谷工場	四五三	不明
全上川崎工場	一五四	一五〇
相模紡績株式會社平塚工場	一五三	不明
小田原紡績株式會社工場	一三三	一四一
富士瓦斯紡績株式會社小山工場	一一一	六九
横須賀海軍工廠	一〇八	一五七
東洋紡績株式會社王子工場	九六	九二
日本電氣株式會社(三田四國町)	九二	二〇〇
東京電氣株式會社川崎工場	六五	一一〇
東京モスリン株式會社	五六	六六

以上ノ中富士瓦斯紡績株式會社川崎工場ニ於テハ死亡職工中六割ハ寄宿者ニテ就眠中ノ夜勤女工カ其ノ倒壊ニ因リテ悲惨ナル壓死ヲ遂ケタルモノトス又同會社保土ヶ谷工場ハ實ニ四百五十三名ノ壓死者ヲ出セルカ之等ハ食堂ヘノ往復ノ途次工場中央廊下ニ於テ壓死ヲ遂ケタルモノナリ
 工場ハ構造上一般民家ニ比シ耐震的ナラサルモノ多キカ故ニ其ノ倒壊破損ニ因リテ死傷セルモノ一

七

般民家ニ比シ割合多キヲ示ス今兩者ノ割合ヲ比較スレハ左表ノ示ス如シ

府 縣 別	震災當日現在人口千ニ付		震災當日現在職工千ニ付	
	死亡者	負傷者	死亡者	負傷者
千 葉 縣	一	一	二	四
靜 岡 縣	一	一	一	八
				五

此ノ如ク一般民家ヨリモ工場内部ヨリ多數ノ死傷者ヲ出セル事實ハ工場及附屬建築物ノ建築ニ付深甚ノ考慮ヲ必要トスル所以ヲ語ルモノニ外ナラスト信ス

死傷者ノ救濟狀況ハ概ネ良好ナルカ如ク職工ノ死傷ハ之ヲ業務上ノ死傷ト看做シ扶助規則ニ基キ夫休業扶助料、療養費、遺族扶助料葬祭料等ヲ支給シタルモノ多シ

解雇職工ニ關スル手當ハ神奈川縣ノ調査未了ニツキ之ヲ除キ其ノ他ノ府縣ノ概況ヲ見ルニ東京府ニ於テハ手當ヲ支給セサルモノ四十四工場（解雇職工三千五百七十五人）アリ靜岡縣ニアリテハ一工場ヲ算ス、埼玉縣ニ於テハ之ヲ支給スル工場ト支給セサル工場ト相半スル狀勢ニ在リ、千葉縣ニ至リテハ解雇職工極メテ少ク僅ニ六十四名ヲ算スルノミナルカ、之等ニ對シテハ夫夫手當ヲ支給シタル爲何等紛争ヲ見タルコトナシ、手當金額ハ東京府ニ於テハ二十圓以上ノモノ最モ多ク最高千六百二十圓ニ及フモノアリ、千葉縣ニ於テハ五圓以上五十圓未満ノ手當ヲ支給セリ

第二 東京府ニ於ケル被害

東京府下ニ於ケル工場（四、〇七九）ノ罹災シタルモノノ内單ニ焼失シタル工場ノミニテモ一千五百九十二ニシテ總數ノ三割九分ニ相當シ之ヲ職工五十人以上ヲ有スル比較的大工場ニ就テ觀レハ被害ナキモノ極メテ少ク五百四十五中僅ニ五十ヲ算スルノミニシテ焼失シタルモノ二百三工場（三割七分）之ニ半燒全潰、半潰、小破等ヲ加フレハ四百九十五ノ多キニ達シ總數ノ一割餘ニ當ル

工業種類別	適 用 工 場 中		同 上 中 職 工 五 十 人 以 上 ヲ 使 用 ス ル 工 場	
	震災當時ノ工場數	燒失工場數	震災當時ノ工場數	被害工場數
染織工場	六三二	一一八	八一	六七
機械工場	一九一九	九〇九	一八一	一六三
化學工場	七三〇	二一六	一〇二	九九
飲食物工場	一一四	四六	三二	二九
雜工場	六六二	二九四	一四三	一三一
特別工場	二二二	九	六	六
				一〇〇〇

計	四、〇七九	一、五九二	三・九	五四五	四九五	九・一
---	-------	-------	-----	-----	-----	-----

燒失割合ハ機械器具工場ノ四割八分雜工場ノ四割四分飲食物工場及特別工場ノ四割一分、化學工場ノ三割トナル尙五十人以上使用工場ノ被害割合ハ特別工場ノ全部、化學工場最多ク機械器具工場飲食物工場、雜工場染織工場等之ニ亞ク今之ヲ大別スレハ左ノ如シ

全 燒 二〇三工場
 半 燒 九工場
 全 潰 二〇工場
 半 潰 一三二工場
 小 破 損 一三一工場

尙非適用工場ノ燒失及殘存工場ヲ調査スルニ左ノ如クニシテ四割四分餘ニ當リ之ニ倒壊破損等ヲ數フレハ其ノ通半數ニ上ルヘシ

工場數	震災前ノ非適用工場		工場數	燒失工場		工場數	殘存工場	
	男	女		男	女		男	女
三、〇六六	一、六六四	一、四〇二	九、三三二	一、九七五	三、三三三	一、一七五	二、一五七	
三、〇六六	一、四〇二	一、六六四	三、三三二	一、九七五	三、三三三	二、一五七	一、一七五	
計	計	計	計	計	計	計	計	

工場法適用工場中ノ職工五十人以上ヲ使用スル工場被害程度

工業種類別	災前ノ工場		被害程度				無被害
	工場數	職工數	全燒	半燒	全潰	半潰	
染織工場	八二	四三、〇八一	一一	三、五九六	八	二、四六八	四七九七
機械工場	一八一	三六、五八三	四	一、六〇四	四	七、五四八	七、七九四
化學工場	一〇二	一五、四八八	二	一七一	一	七、三五〇	四、〇六二
飲食物工場	三三	五、一〇一	一	一	一	九五四	一、六三八
雜工場	一四三	二一、三五一	一	一四七	六	二、五四七	五、〇〇五
特別工場	六	九八三	一	二九九	一	三二〇	三三五
總計	五四五	三三、五八七	一九	五、七六七	二〇	一、〇六〇	三、七七一

復舊狀況

大正十二年十月末現在ニヨリ復舊狀況ヲ調査スルニ既ニ作業ヲ開始セルモノ二百九十八工場(總數

ノ五割四分)ニ及ヒ之ニ復舊ノ見込アルモノヲ加フレハ四百六十九工場ノ多キニ達シ復舊ノ見込ナキモノ僅ニ十八ヲ算スルノミ、之ヲ工業種類別ニ觀察スレハ染織工場、機械器具工場、飲食物工場等ハ比較的復舊速ニシテ化學工場、雜工場ニ於テハ比較的遅キヲ見ル、即機械器具工場ニアリテハ總數ノ六割一分ハ既ニ作業ヲ開始シ飲食物工場ニアリテハ六割、染織工場ニアリテハ五割八分、雜工場ニアリテハ四割七分ノ割合ヲ示シ化學工場ニアリテハ四割九分既ニ事業ヲ開始セリ

退去職工數

震災ニ因リ解雇シタル職工、他工場ニ轉勤セシメタル職工及申出ニヨリテ退職シタル職工ヲ合セテ退去職工ト看做シ其ノ數ヲ調査セルニ二萬七千二百五十人ニ及ヒ機械器具工場ニ於テ最も多ク九千五百八十六人ニ達シ特別工場ニ於テ最も少ク僅ニ三十三人ヲ算スルノミ

退去職工數ノ職工總數ニ對スル割合ヲ見ルニ二割二分ニ當ル、更ニ之ヲ工業種類別ニ觀レハ雜工場ノ三割一分最も多ク機械器具工場(二割六分)化學工場(二割五分)等之ニ次キ染織工場ハ一割四分ノ割合ヲ示シ特別工場ニ至リテハ僅ニ三分ニ止ル

退去職工中多數ヲ占ムルハ解雇セラレタル職工ニシテ一萬五千九百十人ニ達シ總數ノ過半ヲ占ム之ニ次クハ申出ニヨリ退職セル職工ニシテ六千八百八十四人ヲ算シ他工場ニ轉勤セラレタル者ハ四千四

百五十六人ナリ

解雇職工數ヲ工業種類別ニ觀レハ多數ノ解雇職工ヲ出セルヲ機械器具工場トス即同工場ニ於テ解雇セラレタルモノハ六千九百二十四人ニシテ解雇職工總數ノ四割四分ニ當ル、雜工場ノ四千三百九十人ニ次キ染織工場ニアリテハ一千六百四十二人(解雇職工總數ノ一割)ナリトス、之等ニ反シ特別工場ニアリテハ一人ノ解雇職工ヲモ出サザリキ

職工退去ノ事由ヲ工業種類別ニ觀レハ染織工場ニ於テハ解雇職工少クシテ他工場へ轉勤セシメタルモノ及申出ニヨリテ退職セシモノ多キニ反シ其ノ他ノ工場(特別工場ヲ除ク)ニ於テハ何レモ解雇職工數他ノ二者ニ比シ遙ニ其ノ數多キヲ知ル

退去職工數

區分 工業種類	震災ニ因ル解雇		他工場ニ轉勤セシメシモノ		申出退職		計		退去職工ノ職工總數ニ對スル割合
	工場數	職工數	工場數	職工數	工場數	職工數	工場數	職工數	
染織工場	一三	一、六四三	一〇	二、〇七一	三〇	二、〇五〇	五三	六、一四四	〇・一四
機械及器具工場	三六	六、九三四	一五	一、六〇四	四七	一、〇五八	一〇〇	九、五八六	〇・二六
化學工場	二八	二、一七九	一〇	一、四一六	三七	一、五五五	七五	三、八八〇	〇・二五

區別	飲食場	雑工場	特別工場	合計
死亡	七	五四	一	160
重傷	七五	四、三九〇	一	1,380
軽傷	一	二六	一	28
行方不明	一三	五九四	二八	446
計	九	四六	一	140
職工總數ニ對スル割合	一三六	一、七三九	五	六八四
	一七	二六	二	三九
	九四	六七三	三	1,110
	〇・一八	〇・三二	〇・〇三	〇・一四

死傷及行方不明職工

震災ニ因リ工場内部ニ於テ死亡セル職工ハ六百六十四人負傷セルモノ八百七十三人(内三百九十八人重傷)ニシテ之ニ行方不明ノモノヲ加フレハ二千六十五人ニ及フ

死傷者ハ染織工場、機械器具工場、飲食物工場等ニ多ク就中染織工場ニ於ケル死傷者ハ死亡職工總數ノ五割六分ニ當ル

死亡シタル職工及行方不明トナレル職工ノ職工總數ニ對スル割合ヲ工業種類別ニ觀察スレハ別表ニ示ス如ク雑工場ニ於テ最モ多ク二割二分ノ割合ヲ示シ、飲食物工場ニ於テハ最モ少ナク僅ニ二厘ニ止マリ其ノ他ノ工場ニアリテハ何レモ一分乃至二分ノ割合ヲ示ス

職工ノ死傷行方不明調

工業種類別	死亡	重傷	軽傷	行方不明	計	職工總數ニ對スル割合
染織工場	三七	一八	三三	四三	九三	〇・一四
機械工場	一五	一七	四三	一七一	五四	〇・〇一
化學工場	二五	一〇	一九	四三	九六	〇・〇一
飲食物工場	四	一	四	三	一二	〇・〇〇三
雑工場	九七	二八	九〇	二六三	四七八	〇・二二
特別工場	九	一	一	四	一四	〇・〇一
合計	六四	三九	四七五	五三八	1,104	〇・一四

職工ニ對スル救済狀況

震災ニ因ル死傷ハ之ヲ業務上ノ死傷ト看做シテ扶助料ヲ支給スルモノ多ク死亡職工六百六十四人中其ノ大半ハ既ニ之カ支給ヲ受ケタルモ未タ之ヲ受ケサルモノ六十九人ヲ算ス即チ支給未定ナルモノ十五工場(死亡職工六十一人)ニシテ全然之ヲ支給セサルモノ五工場(死亡職工八人)ナリ而シテ全然

之ヲ支給セサルモノハ機械工場及化學工場ニ於テ之ヲ見ル尙其ノ金額ハ三百圓未満モノ最モ多ク最高ハ二千三百八十七圓ニ及ヒ特別工場ニ於テ之ヲ見ル

負傷職工ニ對スル救助金ハ之ヲ支給セサルモノ六工場（負傷職工二十二名）未定ナルモノ十七工場（負傷職工二百十一名）アルモ其ノ他ハ夫々負傷ノ程度ニ應シテ之ヲ支給シ其ノ金額ハ五十圓以上百圓未満ノモノ多ク最高四百十二圓ニシテ染織工場ニ於テ之ヲ見ル左ニ富士瓦斯紡績株式會社ニ於ケル震災ニ因ル職工救濟規定ヲ附記ス

富士瓦斯紡績株式會社ニ於ケル震災ニヨル職工救濟規定

一、本人死亡ノ場合

勤続一年未満ノモノ	日給	五〇〇日分
同 三年同	同	五五〇日分
同三年以上勤続一年ヲ増ス毎二日給三〇日分ヲ増ス		
負傷後死亡シタルモノ及當時行方不明ナリシモ其ノ後死亡ト判明シタル者ニハ右規定ヲ準用ス		
一、本人負傷ノ場合		
重 傷	職工扶助規則	第一等ニ該當スルモノ 死亡ト同様
同	同	第二等同 甲 死亡ノ九〇（パーセント）

職工扶助規則

輕 傷	同	第二等ニ該當スルモノ 乙 死亡ノ八〇（同） 丙 同 七〇（同）
同	同	第三等同 甲 同 六〇（同） 乙 同 五〇（同）
同	同	第四等同 甲 同 四〇（同） 乙 同 三〇（同） 丙 同 一〇（同）
微 傷	同	等外傷ニ該當スルモノ 死亡ノ 二（同）

（職工扶助規則第一等ヨリ第四等迄ノ等級ハ工場法施行令第七條第一等ヨリ第四等迄ノ等級ト同シ）

一、家族死亡救済、家屋、家財焼失、流失、埋没、倒潰救済規定ハ之ヲ省ク

因ニ同社ノ支出シタル死亡救済金ハ人員七六二名、金額三二三、二四六圓、ニテ一人當四二四圓二〇錢トス尙負傷扶助料ハ人

員三二一名之ニ對スル豫算額八九、一〇〇圓ナリ

解雇職工ニ對スル手當ハ之ヲ支給セサルモノ四十四工場（解雇職工三千百五十七名）未定ナルモノ六工場（解雇職工四百八十二名）ニシテ其ノ他ノ工場ニアリテハ若干ノ金額ヲ支給セリ其ノ金額ハ二十圓以上ノモノ多ク最高千六百二十圓ニ及ヒ機械器具工場ニ之ヲ見ル

合 計	特別工場	
	工場數	職工數
職工數	1,339	967
工場數	193	7
職工數	134	1
工場數	1	1
職工數	100	45
工場數	100	2
職工數	121	135
工場數	121	4
職工數	16	1
工場數	16	1
職工數	1,101	1,101
工場數	1,101	1,101

復 舊 狀 況

本調査ハ災後日向淺ク工業主ノ方針定マラサル際行ヒタルモノナルヲ以テ之ニ依リ的確ナル推定ヲ下スコト困難ナリト雖モ調査ノ結果ニ依リ被害ノ輕微ナリシカ爲又ハ被害ノ程度カ一部ノ損壞ニ止マリシカ爲事業ヲ繼續シ得タル小數ノ工場ト罹災ノ爲事業ヲ中止シ又ハ全滅シタルモ尙復舊ノ見込ヲ有スト稱スルモノヲ合スルトキハ總計二百九十五トナリ總數ノ五割六分ニ當リ全然復舊ノ見込ナキモノ六十工場ニシテ總數ニ對シ一割二分ノ割合ヲ示ス其ノ他ハ方針未定ナルト工業主ノ居所不明ノタメ調査不能ニ了スリ

適 用 工 場 復 舊 狀 況		末 定 不 明	計
事業繼續 ノモノ	復舊スル見復舊ノ見込 込ノモノ		
1,101	1,101	1,101	1,101

合 計	染 織 工 場	機 械 器 具 工 場	化 學 工 場	飲 食 物 工 場	雜 工 場	特 別 工 場
1,101	14	5	9	2	1	1
1,101	135	57	30	13	3	8
1,101	22	15	17	5	4	1
1,101	29	25	14	2	11	1
1,101	40	8	10	8	2	1
1,101	119	110	100	30	6	8

退 去 職 工

工場ノ罹災セルタメ辭職シタルモノ及解雇ニヨリ工場ヲ退去シタルモノヲ退去者ト看做シ其ノ狀況ヲ調査シタルニ職工總數五萬百五十人中退去職工一萬五千五百十四人ニシテ總數ノ三割一分ニ當ル之ヲ工業種類別ニ觀察スレハ染織工場最モ多ク總數ノ三割五分ニ當リ機械器具工場(總數ノ三割四分)之ニ次ク

此ノ如ク震災後直チニ多數ノ退去職工ヲ出シタルハ大工場中多大ノ被害ヲ受ケタルモノアルカ爲ニ

シテ其ノ主ナルモノハ染織工場ノ小田原紡績一千五百三十六人、相模紡績二千八百七人、純水館製糸所三百六十四人、持田第一製糸所二百三十五人、機械器具工場ノ横濱船渠四千五百四十三人等ナリトス

工業種類別	適用工場退去職工數		總職工ニ對スル退去職工百分率
	職工數	退去職工數	
染織工場	二二、〇九五	七、七三〇	三五%
機械器具工場	一九、〇〇七	六、四五三	三四%
化學工場	三、九九八	五〇四	七三%
飲食物工場	一、七二一	一一九	七%
雜工場	三、〇〇〇	七〇八	二四%
特別工場	三三〇	一	
合計	五〇、一五一	一五、五一四	三一%

死傷職工數

死傷職工ハ工場内ノ事故ニ付テ調査シタルモノナルカ死亡、負傷共ニ染織工場ニ於テ其ノ數最モ多ク死亡者ニ付テ觀レハ總數千三百八十三人中染織工場ノ出セルモノ千七十一人總數ノ七割七分ヲ占ム而シテ紡績工場ハ殆ント總テ全焼又ハ全潰ノ厄ニ遭ヘルヲ以テ染織工場ニ於ケル死傷者ノ大部分ハ紡績工場ヨリ出テタルモノトス、今二三ノ悲惨ナル實例ヲ示サムニ富士瓦斯紡績株式會社川崎工場ニ於テハ死亡職工百五十四人中其ノ六割ハ寄宿舎ニテ就眠中其ノ倒壞ニ依リテ壓死ヲ遂ケタルモノナリ、又同會社保土ヶ谷工場ハ實ニ四百五十三名ノ壓死者ヲ出セルカ之等ハ食堂ヘノ往復途次工場内中央廊下ニ於テ壓死ヲ遂ケタルモノトス

死傷及生死不明職工合計ノ職工數ニ對スル割合ヲ工業種類別ニ觀レハ高率ヲ示スハ染織工場ノ八分ニシテ雜工場ノ六分、飲食物工場ノ五分等之ニ次キ化學工場ハ最モ低ク一分ニシテ平均割合ハ五分ニ當ル

死傷生死不明職工數

工業種類別	職工數	死亡	負傷	生死不明	計	職工數ニ對スル割合
染織工場	二二、〇九五	一、〇七一	六七九	一八	一、七六八	〇〇八
機械器具工場	一九、〇〇七	一三七	二九五	三三	四四四	二〇三
					一一三	

化學工場	三、九九八	二四	二五	一	五〇	一〇・〇
飲食物工場	一、七三二	五〇	二八	一	六八	〇・五
雜工場	三、〇〇〇	一〇九	三七	二四	一八〇	〇・六
特別工場	三、三〇〇	二	七	七	九	〇・〇
計	一三、〇三〇	三八	九〇	三七	二五九	〇・五

第四 千葉縣ニ於ケル被害

千葉縣下ニ於ケル震災ニ因ル工場ノ被害ハ概シテ輕微ナルカ如ク工場法適用工場中被害ヲ受ケシモノ六十二ニシテ其ノ職工數ハ三千九百二十九人ヲ算ス

之等被害工場中燒失セルモノハ全ク之ヲ見ス全潰セシモノハ十六ヲ算スルノミニシテ兩餘ノ工場ハ輕微ナル損害ヲ受ケタルニ過キス死傷者ノ如キモ僅ニ三十二人(内十六人死亡)ヲ出シタルニ止マル

被害比較的輕微ナリシヲ以テ復舊モ早ク既ニ作業ヲ開始セルモノ三十八工場アリ今後ノ方針未定ナルモノ僅ニ二工場アルノミニシテ他ハ本年中心作業開始ノ見込ナリ

地方別ニ之ヲ觀察スレハ北條、野田ノ二町ニ於テ被害比較的著シキカ如ク殊ニ北條ニ於テハ工場ノ倒潰セルモノ多ク縣下ニ於ケル倒潰工場ノ大半ハ同町ノ占ムル所ナリトス又野田町ニ於テハ醬油醸造工場ノ損害ヲ蒙レルモノ尠カラサルヲ見ル

業務別ニ之ヲ觀察スルトキハ毛織物業及醬油醸造業ニ於テ被害ノ顯著ナルモノアルヲ見ルヲ得ヘシ即毛織物業ニ於テハ被害工場僅ニ二ニ止マレトモ損害見積額三十一萬五千圓ニ達シ死傷者十九名(總死傷職工ノ六割)ヲ算スルニ至レリ之縣下ニ於ケル大工場タル市川町所在上毛モスリン株式會社中山支店工場ノ被害顯著ナリシニ因ルモノト認メラル醬油醸造業ニ於ケル被害工場ハ皆野田町所在ノモノニシテ其ノ數二十ニ及ヒ其ノ主ナルモノハ野田醬油株式會社ノ所屬工場ナリトス幸ニシテ死亡者ヲ出ササリシト雖モ損害見積額百四十三萬圓ニ上リ總損害見積額ノ過半ハ實ニ同業ノ占ムル所ナリ被害ノ程度ヲ檢スルニ工場ノ燒失倒潰セルモノナカリシト雖モ附屬建物ニ損害ヲ被レルモノ多ク就中煙突ノ倒壊又ハ龜裂ヲ生セルモノ其ノ數頗ル多シ

震災ニ因リ解雇シタル職工ハ僅ニ六十四人ニシテ其ノ六割半ハ染織工場ノ占ムル所ナリ、之等ノ解雇職工ニ對シテハ最低七圓ヨリ最高五十圓ノ範圍ニ於テ夫々手當ヲ支給セルヲ以テ手當問題ニ關シ紛爭ヲ生セル事例ヲ認メス

又死亡負傷ニ關シテハ之ヲ業務上ノ死傷ト看做シ扶助規則ニ基キ休業扶助料、療養費、遺族扶助料及葬祭料ヲ支給セリ

今被害狀況ヲ業務別ニ分類スレハ左表ニ示ス如シ

業務別	工場數	職工		計數	死者	負傷者	損害見積高
		男	女				
製絲	五	三六	五四	五六一		一	九六,三〇〇
製綿	八	一一	一〇	二一			二,五三五
木綿織物	三	三〇	七三	一〇三		三	七六,三〇〇
毛織物	二	二四五	八六	一,〇六一	一三	六	三二五,〇〇〇
染色整理	一	五八	三	六一			一,五〇〇
組物編物	一	二	一〇	一二			五,五〇〇
金屬品	四	一五六	九	一六五			五八,五〇〇
製紙	三	一五七	三	一六〇	一	二	一〇,六六〇
製藥	三	一九	二〇	三九			七五,五八〇

業務別	工場數	職工		計數	死者	負傷者	損害見積高
		男	女				
酒釀造	三	一三五	七	一三三			二八七,四九四
味淋釀造	二	四八		四八			六三,〇四〇
醬油釀造	二〇	一,三九三	三〇	一,四二三		四	一,四八,一三七
罐詰	一	四	二七	三一			二〇,〇〇〇
煉乳	三	二二	四	二七			三二,九三三
水産品	一	四	一八	二二			一〇〇,〇〇〇
飲食雜材	一	七	一四	二一			五,〇〇〇
計	三二	〇,三三〇	一,五九九	三,九二九	一六	一六	二,五七九,七九九

第五 静岡縣ニ於ケル被害

静岡縣下ニ於ケル震災ニ因ル工場ノ被害ハ富士瓦斯紡績小山工場ニ於ケルカ如キ異例ニ屬スルモノヲ除キ概ネ輕微ニシテ工場法適用工場七百十八中被害ヲ受ケタルモノ四十四ヲ算スルニ止マル死傷者數百九十四名ニ上リ損害見積額六百二十五萬六千五百餘圓ノ多キニ達スルハ專ラ富士瓦斯紡績株式會

シ煙突ノ毀損セシモノ五十六件ナリ

被害工場ヲ通シ死亡者十四人（内女十人）負傷者五十四人（内女四十七人）ニシテ之等死傷者ハ北足立郡、南埼玉郡、北埼玉郡ヨリ出セルモノトス、死傷者ハ何レモ女子ニ多ク死亡者ニ付テハ其ノ七割、負傷者ニ付テハ其ノ八割七分ヲ占メ皆製絲工場ヨリ出テタルモノトス、其ノ死傷原因ハ工場寄宿舎、食堂ノ倒壊ニ因ルモノナリト雖南埼玉郡ノ一製絲工場ニ於テハ煙突ノ倒壊ニ因リテ八名ノ死傷者ヲ出セリ

震災ニ因リ解雇シタル職工ハ三百三人ナルカ煉瓦製造工場ヨリ解雇セラレタルモノ其ノ四割ヲ占メ其ノ數最モ多ク鑄物工場、織物工場等之ニ次ク之等解雇職工ニ對スル手當ハ之ヲ支給スル工場ト支給セサル工場ト相半スル狀況ナリ

扶助狀況ハ概ネ良好ナルカ如ク死傷者ニ對シテハ業務上ノ死傷ト看做シテ扶助料ヲ支給セリ

業務別ニ觀察スルトキハ鑄物工場ノ被害最モ顯著ニシテ縣下ニ於ケル總被害工場數二百七中過半ハ同工場ノ占ムル所ニシテ織物工場（被害工場三十三）製絲工場（被害工場數十六）酒造工場（被害工場數十）等之ニ次クト雖モ死傷者ヲ出セシ點ニ於テ特ニ注意ヲ要スヘキハ製絲工場ナリトス

終ニ縣下ニ於ケル激震地タリシ北足立郡ノ被害狀況ヲ檢スルニ郡下被害適用工場百五十九ノ中百十三即七割ハ川口町ニ於ケル鑄物工場ノ占ムル所ニシテ實ニ同町ノ鑄物工場ハ全滅ノ厄ニ遭ヘリト稱セ

ラル、幸ニシテ死亡者ナク少數ノ負傷者（四名總テ男工）ヲ出セルニ止マリシト雖モ損害見積額百四十三萬四千三百圓ニ達シ倒壊棟數ハ縣下ニ於ケル總倒壊棟數ノ實ニ九割強ヲ占ムルヲ以テ鑄造業ノ蒙ムレル被害尠少ナラサルヲ知ル現ニ鑄物工場ノ復舊最モ遅ク縣下ニ於テ復舊ノ見込ナキ工場八中七八鑄物工場ノ占ムル所ナリトス

工場ノ震災被害調

郡市別	被害工場數	建物ノ被害		煙突ノ損積額	死亡		負傷	
		全燒	全潰半潰		男	女	男	女
川越市	四			四				
北足立郡	一五九	四	三三〇	一九二、四二、一一〇	三	六	九	一九
入間郡	二		三	二九、四五〇				一
比企郡								
兒玉郡	一			一、五〇〇				
大里郡	九			八三、八〇〇				
北埼玉郡	五			二一、三〇〇	一		一	三
南埼玉郡	九		一五	七三、二〇〇	一	三	四	五
計			六	四一七、四二、一〇〇	四	九	一三	二五

北葛飾郡	計	非適用工場ノ被害
九	1107	二八
一	四	一
二	三六二	一七
一	五四	五七
七・二〇八、〇三〇	三六二、三六二、〇三〇	五六
		四五六、六六九
	四	
	10	
	四	
	七	
	四	
	四	

三四

第七 震災ト工場建築

一、概況

被害——工場ノ倒壊——工場ノ發火

二、建物構造種類ヨリ見タル被害

三、防火壁ニツキテ

四、煙突

五、消火機關

六、工場内ノ死傷者

七、結論

工場間取——敷地——基礎——木造——煉瓦又ハ石造鐵骨煉瓦又
 ハコンクリート造鐵筋コンクリート造

一 概 況

這般ノ震災ニ因リ工場ノ直接間接受ケタル被害ハ前數節ニ述ヘタル如ク蓋シ甚大ナルモノアリ、東京府下、神奈川縣下ニ在ル大多數ノ工場ハ地震ト共ニ全潰又ハ一部破潰ヲ來シ、加フルニ家屋ノ倒壊ト共ニ工場内外ヨリ發セル火災ハ建物、材料、設備ヲ燒燼シ倒破壞ニ數倍スル損害ヲ與ヘタリ、又建物ノ倒潰ト共ニ就業員ノ死傷シタルモノ實ニ數千人ニ達セリ

工場ノ損害金額ハ農商務省工務局ノ調査ニ依レハ染織工業ニテ十六億五千八十萬圓、機械及器具工業ニテ二億七百五十萬圓、化學及雜工業ニテ一億六千七百七十萬圓ニシテ總金額二十億二千萬圓ニ達セリト云フ

斯クノ如ク工場建物ニ倒潰多ク從ツテ被害ノ程度莫大ナリシ原因ヲ尋ヌルニ

一、現今ノ工場ハ多クハ地盤惡シキ場所ニ設置サル、コレニハ種々ノ理由アルヘケレト材料及製品ノ運搬ノ安價ナル川岸地ヲ選フコト又廣キ平坦ナル敷地ヲ要スルヲ以テ勢ヒ地價安キ軟質ノ地盤ノ場所ヲ選定スルコト等ヨリ來ルナルヘシ、此地盤ノ惡シキコトハ地震ノ震動ニ大ナル影響アルモノニシテ今回ノ震災ニツキテ今村博士ノ發表セル所ニ依レハ東京市ノ下町ハ地盤惡シキ爲本郷方面ノ約三倍ノ震度ヲ示セリ、即チ下町ノ建物ハ本郷方面ノ建物ヨリ約三倍ノ力ヲ以テ横ニ押サレタルト同シ結果トナレリ、カク惡シキ地盤ニ多ク存在スル工場ノ被害多カリシハ偶然ナラスト云フヲ得ヘ

シ

二、工場ハ作業上大室ヲ要スルコト多ク爲ニ建物内ニ間仕切壁少ナク、從ツテ壁体ハソレニ横ノ震動ニ耐ユル力甚タ危弱ナリ、震災ノ跡ヲ見ルニ小建物又ハ間仕切ノ多キ建物ノ部分ハ大破少ナキ例ハ甚タ多シ

三、窓面積ノ壁面積ニ比シテ割合ノ甚大ナルコトモ地震ニ弱キ一因ナリ、煉瓦壁ハ勿論鐵筋コンクリート造ノ工場ノ普通ノ事務所倉庫等ノ鐵筋コンクリート造ノ建物ニ比シテ被害ノ割合ノ甚タ大ナリシ主因ハ一ニ之ニ因ルモノナリ

コノ窓面積ヲ大ニスルコトハ特ニ多量ノ光線ヲ必要トスル工場ニハ避ケ難キ所ニシテ殊ニ米國式ノ鐵筋コンクリート造工場ハ殆ント全建物カ外部ハ柱及梁ノミヨリ構成シ其ノ間ハ全部窓面ナル構造ナルモノ多キハ耐震的ニハ危弱ナル構造ニシテカ、ル大面積ノ窓ヲ必要トスル場合ニハ柱ハ特ニ普通荷重ニ據ル計算以外ニ耐震的ニ堅牢ナラシムルヲ要ス

四、工場ハ天井高クシテ各階ノ壁體ノ高サ大ナリ

コレハ光線ヲ奥深ク到達セシムルヲ要スル爲ト衛生上一室ノ氣容ヲ大ナラシムル必要上止ムヲ得サル所ニシテ之カ爲ニ壁體ハ益々弱メラル

五、工場ハ機械及料品ノ荷重大ナルモノ床面ニ置クコト多キヲ以テ二階以上ノ建物ニ在リテハ地震ノ

被害大ナリ即横ノ震動ヲ受クル場合ニ建物ノ重心ノ高キ程壁體從ツテ建物ハ不安定ナリ
又工場内部ヨリ發火セルモノ多カリシ理由ハ

- 一、工場ニハ火氣ヲ多ク取扱フコト
 - 二、發火性ノ藥品ヲ取扱フ工場多ク之カ顛覆容器ノ破碎等ニ依リテ發火シタルモノ甚タ多シ
- 工場内ヨリ發火セシモノニ今回ノ東京、横濱ノ大火ノ原因トナレルモノ夥多ナルモ、ソレ以外ニ於テモ數十箇所ヲ舉ケ得ヘシ例ヘハ明治製糖(川崎)東京瓦斯電氣(大森)大日本ビール(保土ヶ谷)東洋紡績(王子)富士瓦斯紡績(保土ヶ谷及小山)古川電氣工業、ケーブル工場(平沼)横濱水道瓦斯局平沼製造所(平沼)東洋麻糸(横濱)横濱亞鉛鍍(横濱)セールフレザー(横濱)日本リンネット(横濱)横濱製銅(横濱)日本人造肥料(横濱工場及子安工場)横濱化學(横濱)旭硝子(鶴見)横須賀海軍工廠、純水館茅ヶ崎製糸、盛進館持田第一工場(神奈川)輝國館製糸(山梨縣)其ノ他ニモ甚タ多シ

二 建物構造種類ヨリ見タル被害

工場建物構造ヨリ被害ノ程度ヲ分類比較スルニ最モ被害ノ少ナカリシハ鐵骨生子板張りナリ、コレハ鐵骨ノ彈性ノ大ナルコトカ有利ナリシ最大原因ニシテ加フルニ之ヲ被覆スル生子板モ同様ニ彈性體ニシテ而モ鐵骨ニ比シテ甚タ輕量ナル點ハ益々耐震性ヲ有効ナラシメタリ

之ニ次クハ鐵骨ヲ有スル鐵筋コンクリート造ニシテ之ハ普通ノ鐵筋コンクリートニ比シテ彈性體ナル鐵ノ量ノ非彈性體ナルコンクリートニ比シテ比較的多キカ最モ有利ナリシナリ

普通ノ鐵筋コンクリート造ハ之ニ次イテ安全ナリシカ之ハ鐵筋ノ量比較的多ク又其ノ設計及施工ノ當ヲ得タルモノハ被害無カリシモ然ラサルモノハ被害相當ニ大ナリキ、元來鐵筋コンクリート造ハ耐震及耐火兩方面ニ理想的ノモノナルモ設計ノ不完全ニシテ其ノ施工上ニ監督ヲ誤ルトキハ危險ナル場合少カラス殊ニ工場建築ハ前記ノ如ク一室ノ壁面ノ廣大ナル事及窓面ノ大ナル事ハ耐震的ニハ甚タ不利ニシテ特ニ後者ノ如キハ米國式工場建築法ニ倣ヒテ外壁ハ柱及梁以外ハ殆ント全部窓トセルモノ少カラスカ、ルモノ倒潰シタル例甚タ多シ

コレ等ニ次テハ木造建築ナルカ、之ハ平家ニ在リテハ被害少ナキモ二階以上ノモノハ特ニ二階以上ニ重キ荷重ヲ有スルモノハ倒潰少カラス、之ハ多クハ筋違、方杖、控柱等ノ斜材ノ使用ノ無キモノ少キモノ又ハ其ノ使用法ノ不完全ナルモノハ結果良シカラス又木造ノ煉瓦、石等ノ腰積ノ上ニ建テアルモノハ此ノ点ニテ外レ倒潰傾斜セルモノ少カラス

最モ成積ノ惡シカリシハ煉瓦及石積ニシテ之等ハ地盤ノ良好ニシテ設計及施工ノ優良ナルモノニシテ比較的震度少ナキ土地ノモノ、外ハ殆ント大部分ハ第一回若ハ第二回ノ震動ニテ倒潰破碎セリ、被害ノ大小ハ煉瓦ノ質、モルタルノ割合割合其ノ他壁厚ニモ據ルモノナルモ震度ノ大ナル土地ニ於ケル

實例ハ壁厚キモノ必スシモ信賴スヘカラサルコトヲ證明セリ、今後煉瓦、石ハ耐震構造トシテハ特種ノ補強ヲ施スニ非スハ絶耐ニ不可ナリ

鐵骨煉瓦及石積構造ハ比較的好成績ヲ擧ケタルカ之ハ何レモ二三階ニ止マル建物ナリシ爲モアルヘシ素ヨリ當然ノ事ナリトス

木骨煉瓦造モ平家ノモノハ比較的安全ナリシモ推奨スヘキ構造ニ非ス

三 防火壁ニツキテ

煉瓦造ハ勿論木造家屋ニモ防火壁トシテ多クハ煉瓦積ヲ使用ス然ルニ煉瓦ハ前記ノ如ク耐震的構造トシテ成績最モ不良ナリ、最モ注意スヘキハ木造家屋ノ煉瓦積防火壁ニシテ殊ニ工場寄宿舎ノ如キハ其ノ構造和式ニシテ筋違、平鐵又ハ鐵ボルトノ如キ耐震的補強材ヲ用フルコト少キモノニ在リテハ防火壁ハ左右ノ動搖ト共ニ其ノ場所ニ於テ家屋ハ大ナル口ヲ開キ煉瓦壁ハ其ノ間ニ崩潰シ甚タシキハ其ノ防火壁ノ重量ニ耐エスシテ木造ノ一方カ全然倒潰セル例モ少カラズ寄宿舎ニ於ケル死傷者ハ多クハ此ノ煉瓦ニテ壓セラレタルモノナリ

是ヲ以テ今後ノ木造建築ノ防火壁トシテハ成ルヘク鐵筋コンクリート造トナシ左右ノ木造部トハ鐵類ヲ以テ堅固ニ連結シ且ツ木造部モ十分ニ筋違及鐵物ヲ用ヒテ之カ安全ノ補助ヲ爲スヤウノ心掛ケヲ以テ設計スルコト必要ナリトス

四 煙 突

震度比較的大ナリシ地域ニ於ケル煉瓦造煙突ハ殆ント全部潰倒セリ周圍ニ鐵ヲ以テ補強セル煉瓦煙突モ倒潰セルモノ甚タ多シ

鐵筋コンクリート煙突モ倒折セルモノ亦頗ル多シ

鐵造煙突ハ多クハ倒壊ヲ免レタリ

右等ハ其ノ材料ノ強力性ノ大小ニ多クハ關係セルモノナルカ強力性ノ小ナル煉瓦煙突ノ倒潰ハ勿論ノコトナルカ弾力性ヲ有スル鐵筋コンクリートニ多クノ震害ヲ見タルハ鐵筋ノ不足及其ノ繼キ目ノ不完全ナルモノ或ハコンクリートノ調合ノ不良等ニ其ノ原因ヲ歸スヘキモノニシテ今後ノ鐵筋コンクリート煙突ト構築ニハ之等ノ点ニ付十分注意ヲ要スル事ナリトス

五 消火機關

紡績工場ノ多ク使用スル自動消火撒水裝置（スプリンクラー）及消火栓ハ其ノ水深ノタンクハ倒潰シ水道ハ停止シ且ツ配管ハ途中ニテ破折シテ何レモ用ヲ成ササリシモノ多シ、又消防ポンプモ其ノ建物ノ倒潰ニ依リテ引出シ能ハサリシモノモアリ、何レモ消火ニ甚シキ不便不利ノ状態ニ陥クタルカ如シ

之等ノ点ニツキテ今後ノ設備ニハタンクノ配管ヲ耐震的ニ爲ス事等モ十分考慮ニ入ル必要アルヘ

六 工場内ノ死傷者

工場建物ノ倒潰ニ依リテ直接生シタル死傷者ハ死亡者二千二百人負傷者二千八十五人ナルカ之等ノ多クハ纖維工業殊ニ紡績工場ニ於テ出セリ

斯ノ如ク多數ノ死傷者ヲ生シタルモ之ヲ倒潰セル建物ノ割合ヨリ見ルトキハ寧ロ其ノ數ノ僅少ナリシコトヲ認メ得ヘシ、コレハ次ノ三ツノ理由ヨリ來タルモノナリ

(一) 當日ハ朔日ニシテ休業セル工場ノ多カリシコト
之ハ數年前ヨリ第一第三日曜日ヲ休日トスル慣行廣ク行ハレタルモ近來ハ昔日ノ如ク一日十五日休日制ト改マリタルモノ甚タ多シ、殊ニ第一日曜日ヲ休日トセル工場モ前日ノ八月三十一日カ大祭日ニ當リ休日ナレハ九月二日ノ日曜日ヲ一日繰上ケ八月三十一日及九月一日當日ヲ連續シテ休日トセルモノモアリタリ、之等ノ爲當日ノ災厄ヲ免レタルモノ頗ル多シ

(二) 工場ニテハ時恰モ晝食時ニテ多クハ木造ナル食堂ニ在リテ安全ナルヲ得タルモノ多シ
但シ中ニハ二回ノ交代ノ食事制ヲ採レル工場ニテ當時第一回ト第二回トノ交代時刻ナリシ爲煉瓦壁ナル廊下ニ列ヲナシテ歩行シツ、アル時ニ震動來リ煉瓦壁ニテ多數ノ死傷ヲ出セル工場モアリタリ

(三) 建物ハ倒潰セルモ内部ニハ多クノ高キ機械類ノ配列シアリテ屋根ノ小屋材ノ墜落シ來タリタルモノモ機械ニテ支ヘラレテ大部分ノ者ハ無事ナルヲ得タルモノ甚タ多シ紡績會社ノ如キハ皆其ノ例ニシテ却テ逃避セントシテ煉瓦壁ニ沿ツテ通行シツツアリシモノノミカ死傷ヲ生セリ而モ震動ト建物ノ倒潰ハ續テ來リ避難口ノ遠キ建物ニ在リテハ出口ノ近クニ到リシモノスラ稀ニシテ大多數ノモノハ安全ナルヲ得タリ

七 結 論

今後ノ工場建築ニツキテ注意スヘキ事項

一、間取及大體ノ設計

建物ヲ可成簡單ナル形トナシ、間仕切ヲ可成多クトリ、且此ノ間仕切ハ十字形ナル様ニトルヲ可ス

二、敷 地

地質ハ硬キ程震度小ナルヲ以テ震災ノ憂ヒ少シ、即岩、砂利交ノ粘土層、硬キ粘土層、砂利層ヲ最良トシ、水分無キ砂地、普通粘土層等之ニ次ク、水分多キ砂地、泥地、埋立地ハ良シカラサルヲ以テ若シ斯カル土地ニ工場ヲ建設セントスル場合ハ其ノ地形工事ニ十分ノ注意ヲ怠ルヘカラス、殊ニ水分ノ多キ土地ハ衛生上ニモ好マシカラサルヲ以テ成ルヘク斯カル土地ヲ避クルヲ可トス
又軟質地カ硬質地層ニ接觸スル處又ハ斷崖ノ上ハ震度大ニシテ危險多ケレハ斯カル土地ハ良シカラ

ス

三、基礎

基礎ハ成ルヘク深クシテ比較的硬ク且ツ厚キ層ノ上ニ置クヲ可トス、盛土ノ上ニ置ク事ハ輕キ木造建物以外ハ不可ナリ

地盤ノ耐重力ノ四分ノ一以上ノ荷重ノカカラサル様ニ基礎地形ノ設計ヲ爲スヘシ

地形ハ成ルヘク連續的ニ爲スヲ可トス、特ニ地質惡シキ處ハベタ地形ト爲スヘク然ラサルモノモ布堀地形トナスヘシ、坪堀地形ハ成績惡シ

四、木造建築

木造家屋ヲ耐震的ナラシムルニ最モ注意スヘキハ屋根ニシテ屋根葺材料ハ出來得ル限り輕クスヘシ
亞鉛引鐵板、石綿板瓦、又ハ石板等ハ比較的輕キ材料ナリ

木材ノ接合部ハ主要部分ハ出來得ル限り平鐵、又ハ鐵ボルトノ類ヲ以テ堅固ニ結合スヘシ
家屋ノ側壁及内壁ニハ成ルヘク土臺ヲ用フヘシ、而シテ土臺ハ側布石等ニ太柄、又ハボルトニテ固定スヘシ

主要木材ノ直角ニ交ル處ハ斜ノ材ヲ以テ兩木材ヲ堅固ニ取固ムヘシ即柱ト土臺、柱ト胴差、敷桁等ニハ筋違ヲ用フルコト及小屋梁ト柱トニ方杖ヲ用フル等ハ耐震建物ニハ必須ノ事ナリトス

直角ニ交ル水平材（梁敷桁、胴差等）ニハ出來得ル限り燧材ヲ用ヒテ堅固ニナスヘシ

木造ノ表面ニ煉瓦又ハ石ヲ積ム構造ハ甚タ良シカラス

木骨ノ間ニ煉瓦ヲ填充スル場合ニハ木骨ヲ餘程堅固ニ構成スヘシ但シ此構造法ハ木骨ノ腐蝕シ易クシテ望マシキ構造ニ非ス、木造ニ用フル防火壁ハ成ルヘクハ鐵筋コンクリート造ト爲シ左右ノ主要木部ニ緊結シ、左右木造ハ特ニ筋違等ヲ用ヒテ堅牢ニ構築スヘシ

五、煉瓦又ハ石造

煉瓦又ハ石造ハ非耐震建築ナルヲ以テ出來得ル限り之ヲ避ケテ寧ロ建築費ノ大差ナキ鐵筋コンクリート造ヲ選フヲ可トス

煉瓦又ハ石造ノ仕事ヲ優良ナラシムルト同時ニ壁厚ヲ大ニスル事ニ依リテ比較的耐震的トナラシムヲ得ルモ今回ノ震災ノ跡ヲ見ルニ可ナリ厚キ煉瓦壁モ倒潰セルモノ多クアルヲ以テ壁厚ニノミ信賴セサルヲ可トス、殊ニ壁厚キハ建築費ト面積トノ冗費ノ多キヲ以テ好マシカラス、一室ノ壁ノ長キ場合例ヘハ三四十尺以上ニ亘ル場合ニハ特ニ補強セサルトキハ危險甚タ多シ

煉瓦又ハ石ヲ是非共用ヒントスルトキハ次ノ注意ヲ怠ルヘカラス

一、良質ノ煉瓦ヲ用フルコト

一、煉瓦ノモルタルハ砂三容積ニ對シテセメント一以上ノ調合ニ依ルヘシ

- 一、煉瓦積施工ハ丁寧ナルヘシ
- 一、一室ノ壁ノ高十尺以上トナルコト及窓ノ上部ノ壁カ高三尺以上ナルコトハ望マシキコトニ非ス
- 一、窓ノ餘リ大ナルコト及其ノ數ノ多キ場合ニハ特別ノ補強方法ヲ講スヘシ
- 一、上下層壁體ノ厚サニ急激ノ變化ヲ與ヘサルヲ可トス壁厚ノ變化ノ必要ナルトキハ徐々ニナスヘシ
- 一、建物ノ隅ニ近キ處ニ入口又ハ窓ヲ設クルハ良シカラス
- 一、壁體ノ長キ場合其ノ他地震ニ脆弱ナル場合ニハ煉瓦目地内ニ數段置キニ平鐵ヲ敷キ入ル事、又ハ鐵筋コンクリートノ臥梁ヲ用フルコトハ甚タ有效ナリ
- 一、床梁ハ窓ノ上ニ來ラサル様ニナスヘシ若來ル場合ニハ鐵筋コンクリート梁ヲ窓上ニ架スヘシ
- 一、高キ切妻壁及胸壁及屋上煉瓦煙突ハ最モ危險ニシテ之等ハナルヘク設ケサル、可トス若シ止ヲ得ス設ケル場合ニハ輕キ構造トスルカ又ハ十分ナル補強方法ヲ講スヘシ
- 一、蛇腹等ノ突出物ハナルヘク之ヲ避クヘシ
- 六、鐵骨煉瓦又ハコンクリート造
- 鐵骨ノ繼手ハ完全ニ固定的ナルヘシ、又出來得ル限リ筋違ヲ用フヘシ
- 壁體材ノ煉瓦又ハコンクリートハ地震ノ際脱出スル虞アルモノナレハ此點ニ於テ煉瓦ヨリ鐵筋コン

クリートヲ良シトス

煉瓦ヲ用フルトキハ水平ニハ平鐵、垂直ニハボールトヲ積込ムヘシ窓ノ上下、入口ノ上ニハ矩形鐵又ハ平鐵敷キ込ミ其ノ左右ニハ縦ニボールトヲ積込ミテ壁ノ弱點ヲ補フヲ可トス

此水平ノ平鐵ハ左右ノ鐵柱トハ縦ボールトハ桁、胴差等ニ連結スヘシ

七、鐵筋コンクリート造

コンクリートノ材料及調合ハ優良ナラサルヘカラス

砂、砂利ハ均分ヲ含マサルモノ、又砂利又ハ碎石ハ六分以内ノ大サノモノヲ使用シ調合ハセメント

一、砂利二、五砂五ノ容積比ヨリ劣ルヘカラス

鐵筋ノ太サ配置ノ計算ハ地震ニ對スル計算ノ注意ヲ怠ルヘカラス

内外國ノ專賣特許鋼棒、又ハ特種形ノ鋼棒ヲ使用スル場合ニモ其ノ構造ニ應シテ強度ヲ計算スルコトヲ怠ルヘカラス

窓ヲ大ニナシ多クノ採光ヲ得ルハ鐵筋コンクリート造ノ特長ナルモ窓ノ大ナルハ非耐震ニナリ易キヲ以テ特ニ注意ヲ要ス

梁及柱ノ鐵筋ノ接合部ハ完全ニ固定的ナラシムルヲ要ス

出來得ル限リ持送りヲ用ヒテ接合點ヲ大ナラシムヘシ

假枠ハ堅固ニ且ツ水ノ漏サル様ニナスヘシ

富士瓦斯紡績會社

今回ノ震災ニツキ最大ナル被害ヲ受ケタルハ富士瓦斯紡績會社ニシテ同時ニ最モ多數ノ死傷者ヲ出セリ、同會社ノ静岡縣小山工場、神奈川縣保土ヶ谷及川崎工場、東京府、押上工場ハ何レモ地震ト共ニ殆ント建物ハ全潰セリ而シテ押上工場ハ其ノ後ニ全燒シ小山、保土ヶ谷ノ兩工場ハ一部燒失セリ、

○川崎工場

工場ノ建物ハ主トシテ煉瓦造スレート葺鋸齒屋根平家ナリシカ主要工場建物三棟總坪數九千九百七十八坪ハ殆ント潰倒シ、附屬建物四千二百九十三坪（内千八十坪ハ煉瓦倉庫他ハ木造）モ概ネ全潰又ハ半潰セリ
死者ハ百五十四人ニシテ内男二十二女百三十二人、重傷者三十三人内男一人、女三十二人、輕傷者百五十九人内男九人、ナルカコレ等死傷者ノ内六割ハ夜勤ノモノカ就眼中ニテ今度ノ災厄ニ遭遇セリ
工場ニテハ煉瓦壁體、寄宿舎ニテハ煉瓦防火壁ノ爲メニ崩潰壓死セリ、建物ノ崩潰ト共ニ機械ハ一時ハ全部破壊セシモノト思ハレシカ調査ノ結果單ニ二十%ノ損害ニ過キササルコト發見セリ、コレハ各

機械ハ小屋梁等ノ墜落ト共ニ多クハ多少ナリトモ破損ヲ受ケシモ何レモ部分的ノ破損ニシテ大部ハ修理ニ依リテ再ヒ使用ニ堪ユルモノ多カリキ
工場ノ倒潰ト共ニ變電所ハ倒レ電流ハ止マリタルヲ以テ漏電ノ心配無ク又火氣ノアル所ヲヨク調べ火災ヲ未然ニ防クヲ得タルハ不幸中ノ幸ナリキ

○保土ヶ谷工場

工場ハ煉瓦建、鋸齒屋根構造ニシテ全潰セリ
附屬建物トシテ事務所（木造二階建スレート葺）寄宿舎（木造二階建瓦葺）病院（木造平家建瓦葺）食堂（木造平家建スレート葺）等ハ何レモ倒潰セリ
當工場ハ午前十一時半ト正午十二時ト二回ニ交替制ヲ行フ爲メ前回ノモノハ食事ヲ終ヘテ將ニ作業ニ從事セントシテ中央廊下ヲ通行中煉瓦壁ニテ多數ノ死傷者ヲ出セリ

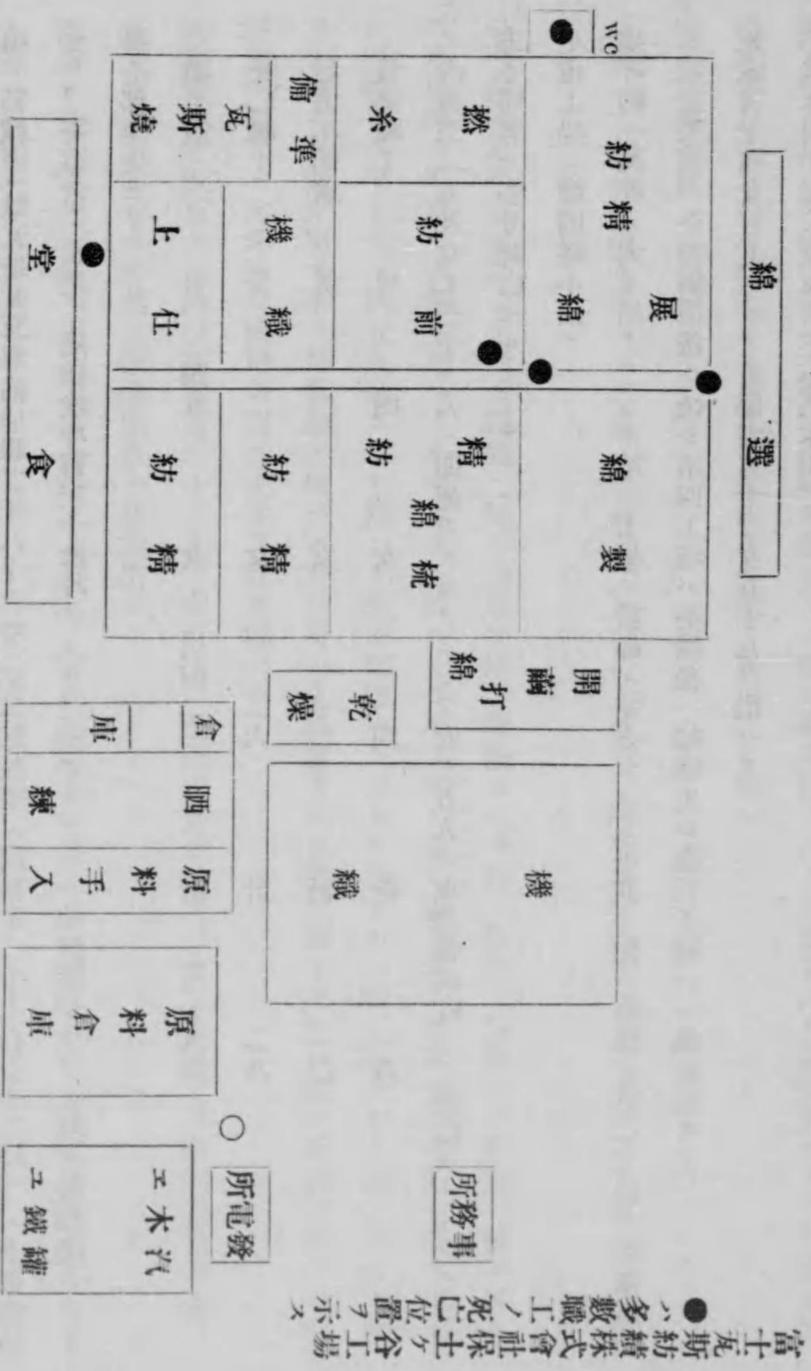
職工數	男	九〇〇	女	二、四八〇	計	三、三八〇
死亡職工（工場）	男	六四	女	三八九	計	四五三
	男	三	女	六	計	九
負傷職工	男	三四	女	一二六	計	一六〇

（死傷者ノ多カリシ場所ハ別圖ニ示セリ）

五〇
 晒練室ノ隣室ノ倉庫ニ過酸化曹達及金屬ナトリウム塊等アリシカ倒塌シテ發火セリ、又事務所二階隅ノ試験室ヨリモ發火シタリ、燒失セル建物ハ晒練室、同附屬倉庫、原料手入室、原料倉庫、事務所等ナリ

原料倉庫ハ鑛鐵筋コンクリート造二階建ナリシカ三日ニ渡リテ燃燒シ爲ニ屋根ハ遂ニ墜落セリ燒失セシ建物ハ多ク壓死者ヲ出シタル工場ニ及ハサリシコトハ最モ幸福ナリシ處ニテ作業場内ニアリ

テ墜落セル建物ノ下ニ在リシモノハ屋根ヲクバリ抜ケテ辛シテ脱出スルヲ得タルモノコノ部分ニ火災起リナハ更ニ多數ノ死傷者ヲ出シタルナルヘシ火災ノ爲ニハ單ニ晒練室ニテ一名ノ負傷者ヲ出セルニ過キス



富士瓦斯紡績株式會社保土ヶ谷工場
 ●ハ多數職工ノ死亡位置ヲ示ス

○押上工場（本所區押上町）

第一紡績室（煉瓦造瓦葺鋸齒屋根二千八十三坪）第二紡績室（同構造二千七百五十三坪）ハ全部倒潰セリ、寄宿舎（木造二階建坪百三十餘坪ノモノ三棟アリ）ハ一棟倒壊シタルカ其ノ後類焼ニテ工場全部焼失セリ

職工數	男	三四五	女	一、四二一	計	一、七六六
死亡職工	男	二	女	二六	計	二八
行方不明者	男	〇	女	一〇	計	一〇
負傷職工	男	四	女	一四	計	一八

右ノ内男工二人及女工三十一人ハ即死セルモノニシテ女工五人ハ重傷後病院ニテ死亡セルモノナリ、行方不明者ハ多分死亡セルモノナルヘシ

○小山工場（静岡縣小山）

建坪約一萬坪ノ大工場ナリシカ第一工場ハ前部ハ完全ナリシモ其ノ他ハ破壊シ第二工場ハ全部倒潰シ第三工場ハ全部倒潰後全焼シ第四工場ハ全潰後一部焼失シ第五工場ハ一部破壊セリ
死者男十四女百七ニシテ重傷者男十、女五十九ヲ出セリ

○小名木川工場（東京府下小名木川）

本工場ハ幸ニ大破ヲ受ケス單ニ倉庫及事務所ノ煉瓦造瓦葺ノモノ大龜裂シテ半倒潰シタルト煉瓦煙突ノ半ハ折レタル程度ニテ一人ノ死傷者モ無ク火災ヲモ免レタリ

小田原紡績會社

工場ノ大部分ハ煉瓦造ニシテ其ノ坪數三千五百二十五坪、附屬建物四千百十三坪ニシテ何レモ全潰セリ

小田原ハ元來地盤惡シク而モ週圍ニ硬キ地層ヲ以テ圍繞セルヲ以テ震波ハ反射シテ震動ハ特ニ甚シク小田原ノ町家モ大部ハ殆ント全半潰セシ程ニシテ該工場モ第一震ト共ニ崩壊シ工場外ニ逃ケ出ツルヲ得タルモノ僅ニ四五人位ニシテ殆ント全部建物内ニ在リテ潰サシ一時ハ全滅カト思ハレシカ屋根ヲ破リテ續々出テ來リ又救助ノ聲ノスル場所ハ全員協力シテ救ヒ出シタルヲ以テ死者ハ僅ニ一割程度ニ止マリ大部分ハ機械ノ間ニ在リテ死ヲ免レタリ

就業者約千五百人ノ内、死者男三十三人、女百人、重傷者男十二人、女二十三人、輕傷者男十人、女、九十二人ニシテ其ノ他微傷者ハ無數出セリ

倒潰ト共ニ電流ハ直ニ止マリ又火氣ノアル處ヲ尋ネテ消火ニ努メタルヲ以テ幸ニ發火ヲ免ルルコトヲ得タリ

東京毛織、王子工場

工場建物約一萬坪ノ内八千坪ハ倒潰セリ、大部分ハ煉瓦造鋸齒屋根構造ナリ、寄宿舎（木造延坪四百三十九坪）ノ内半ハ倒潰セリ、外ニ約百坪ノ附屬家倒ル

王子ハ高臺ハ地盤良ク被害少ナカリシカ工場地帯ナル低地ハ地質悪シク震動大ニシテ倒潰家屋モ甚タ多シ、本工場ノ如キモ第一震ト共ニ倒潰セリ、多クハ食事中又ハ其ノ出入途中ニアリテ工場内ニ在リテ一時倒潰建物内ニ在リシハ約二百五十人ニシテ其ノ内死者ハ男三人女二十七人負傷者男五、女二十九人ナリ、コレ亦多クハ煉瓦壁ニテ死傷シタルモノナリ、寄宿舎ニテハ死者三名ヲ出セリ倒潰ト共ニ電氣ハ其ノ元ヲ止メ汽罐モ火ヲ消シテ發火ノ防止ニ努力セリ

東洋紡績王子工場

煉瓦造二工場ニテ一萬四百九十一坪ハ全潰セリ、木造ハ三千四百八十二坪ナリシカ半ハ倒潰ノ状態ナリ

死者九十六人、重傷者男九、女二十五、輕傷者男十四、女、四十四ニシテ當日出勤職工數ハ、千八百六十九名ナリ

寄宿舎事務所ヨリ發火セシモガソリン ホンブヲ以テ消シ止ムルヲ得タリ

服部商店紡績工場（横濱南太田町）

煉瓦建工場ニシテ全潰セリ、坪數ハ工場千二百坪、寄宿舎百四十六坪二階建ナリ、地盤ハ埋立地ニ

シテ甚タ悪シキ處ナリ、當日出勤職工、男六十三、女百三十一ナリシカ死者ハ女、十六重傷者男四、女十一、ナリ

日清紡績本社工場（東京府下龜戸）

第一工場及第二工場及寄宿舎、職工社宅アル中倒壊セルハ第一工場（煉瓦造鋸齒屋根瓦葺建坪約四千二百坪）ノミナリ

職工數	男	六六七	女	二、八七九	計	三、五四六
死亡職工	男	二	女	二六	計	二七
負傷職工	男	二	女	二四	計	二六

多數ノ職工ハ食事時間ノコトトテ作業部ニ在ラサリシモ作業ハ十二時ヨリ運轉開始スルヲ以テ早キハ自己作業部ニ就ケリコレ等ノモノノ内不幸死傷者ヲ出シタルナリ

類焼ニテ職工社宅三百戸ノ内百三十三戸焼失セリ

相模紡績會社平塚工場

第一第二工場（煉瓦造スレート葺、鋸齒屋根）（約六千坪）其ノ他土蔵、倉庫、食堂、學校事務室、寄宿舎女工用（九棟二階建瓦葺）社宅（九十五棟木造瓦葺）病院、男工合宿所、守衛社宅、タンク（鐵筋コンクリート造）煙突（鐵筋コンクリート造）等何レモ倒潰セリ

倒潰ヲ免レタルハ何レモ小建物ニシテ原料倉庫新倉庫(鐵筋鐵網コンクリート造亞鉛膏)調氣室、(鐵筋コンクリート造)ローラー工場、ポンプ室等ノ小部分ノミナリキ

職工數

男 七〇八

女 二、三三三

計 三、〇四一

死亡職工

男 一四

女 一三九

計 一五三

食事ハ午前十一時四十五分ヨリ〇時十五分迄ニ二交替ニシテ多數ハ工場外ニ在リタリ、死者ハ何レモ煉瓦壁ニテ壓死シタルモノニテ女工百三十九人中九十五人ハ工場内ニテ死セルモノニシテ四十四人ハ寄宿舎防火壁ノ倒壊ニヨリテ壓死セリ
幸ニ全然火災ヲ免レタリ

東京紡績會社西新井工場(東京府南足立郡西新井村)

機械工場(煉瓦造鋸齒屋根スレート葺六百七十三坪半) 混打綿室(同上百十坪)ノ一部、製品倉庫(石造瓦葺)ノ側壁、賣店(木造瓦葺十五坪) 化粧室(同上、五十坪)等ニシテ死亡職工ハ紡績工場ニテ二人其ノ他ハ寄宿舎食堂ヨリ機械室ニ行ク途中機械室煉瓦壁カ廊下側ニ倒潰シテ壓死セルナリ

職工數

男 三二五

女 一、二二七

計 一、五五二

死亡職工

男 一

女 四三

計 四四

東洋麻紡績會社横濱工場(横濱市久保町)

第一乾燥場(木造二階建五十坪) 第二乾燥場(木造二階建七十四坪) 機械工場(煉瓦造平家四十坪) 梳綿工場(同上二百六十四坪) 練條及精紡工場(同上五百三十八坪) 仕上工場(同上九十一坪) 漂白工場(木造平家三百九十二坪)、原料倉庫(同上百坪) 製品倉庫(同上八十坪) 男女工手食堂(同上百四十五坪) 事務所(同上三十坪) 寄宿舎(木造二階建九十二坪及百十坪) 何レモスレート葺ナリシカ倒潰セリ、其ノ他鐵筋コンクリート煙突ハ倒折シ倒潰ヲ免レタルハ天日乾燥場、補繕部、合宿所ノミナリ
二十二名ノ女工ハ紡績工場内ニ在リテ側壁ノ倒潰ニヨリテ壓死セルモノニシテ出口ノ邊ニテ集合シテ死亡セリ、尙四名ハ作業室ヨリ避難室外ニ出テシ際壓死セリ、又女工食堂(木造平家建)ニテ三名壓死セリ、男工二名休憩室内ニアリテ休憩中第二乾燥室煉瓦壁ニテ又三名ハ作業室出入口附近ニテ煉瓦ニテ壓死セリ

職工

男

一三五

女

四一一

計 五四六

死亡職工

男

六

女

二九

計 三五

負傷職工重傷

男

二

女

九

計 一一

尙乾燥室ヨリ發火シテ紡績工場、梳綿室、機械室、漂白工場、乾燥室、男工休憩室、原料倉庫、物置等主要部分全部ヲ燒失セリ

工場ハ爲ニ全部解散ノ止ムナキニ至レリ
横須賀海軍工廠

總建坪二萬八千六百八十五坪(延坪三萬二千二十一坪)ニシテ内完全ナルモノ建坪一萬六千三百二十六坪(延坪一萬六千七百二十六坪)ナリ

死者百八名、負傷者重傷者十九、輕傷九十、微傷百二十九、コレ等ノ内山崩レノ爲メニモ二十七八名ノ死者アリタリ、當時職工等ハ食事中ニシテ工場内ニ居タルモノ少ナカリシ爲幸ニシテ割合ニ死傷者少カリキ

工廠ニハ各種類ノ構造ノ建物アリテ耐震比較研究ニ資スル處多カリキ

一、鐵骨生子板張造—コレハ何レモ平家建ニシテ始ント被害無シ但シ地盤一部沈下ヲ來シ爲ニ多少建物ノ損傷セルモノアルモコレハ建物自身ノ耐震的價値ヲ減スルモノニ非ス

一、鐵骨ヲ有スル鐵筋コンクリート造—被害無シ

一、鐵筋コンクリート造—始ント被害無シ、只梁及柱ノ鐵筋コンクリート造ニシテ柱間ノ壁體ノ煉瓦ナルモノニ二階梁ノ下端ニ於テ柱ノ折レタルモノアリタリ

一、鑄鐵柱建ニシテ柱間ノ壁カ煉瓦ナル構造アリタルカ鑄鐵ノ頂部ノ「トラベリングクレーン」ノ際及底部ノ處ニテ多ク折レタリ

一、煉瓦造—平家ノ而モ小ナル建物ヲ除クノ外ハ皆崩潰セリ而シテ二階建ノモノハ階下ハ残り上階ハ崩潰又ハ傾斜シタリ

一、木造ハ多クハ倉庫ナルカ梁間五間以上ノモノハ結果惡シク而シテコノモノハ支柱ヲ使用セルモノヨリ控柱ヲ用ヒタルモノシカ成績良好ナリキ但シ梁間ノ大ナルモノモ亞鉛引鐵板葺ノモノハ被害少シ

又工廠内三ヶ所ヨリ藥品ニヨリ發火シタルモ直ニ消シ止メタリ

横濱護謨會社

鐵筋コンクリート造ノ工場ニシテ二棟全潰セリ、其ノ後工場ハ類焼ニ遭ヘリ、其ノ主要工場ハ五角形ノ平家ニテ二千七百坪ノモノナリシカ柱ハ鐵筋コンクリート造ニシテ周壁ハ柱間ハ煉瓦ニテ充填シ屋根ハ同シク鐵筋コンクリートノ鋸齒屋根ニテ崩潰ノ原因ハ設計ノ不良ニ基クハ勿論ナルモ柱間ノ壁體カ柱ト同シク鐵筋コンクリート造ナラサリシコト、コノ大室ノ建物ニ間仕切壁ノ一モ無カリシコト及屋根ノ構造ノ重カリシコト等カ主因ニシテ此後者ノ如キハ鐵筋コンクリート造小屋梁ノ如キハ高サ六七尺ニモ及ヘル大梁ナリキ、死者二十四人ニシテ内男十二、女九ハ即死シ男二女一ハ負傷後死亡セリ、重傷者ハ九名、輕傷者多數ニシテ當日二百八十八人出勤アリタルモ食事中ニテ多ク工場外ニ在リタル爲助カリタルモノ多シ

燒失シタルハ二日午前一時半頃ナリ

東京電氣會社川崎工場

倒潰セシハ鐵筋コンクリート造四百三十坪及四百五十坪ノ三階建ニシテ一ハ工場トシテ使用シ、他ハ倉庫ニ使用セルモノナルモ何レモ同型ノ構造ニシテ後者モ工場ニ使用シ得ル様ニ設計セリ、コノ二工場以外ニ於テモ二階梁ノ附近ノ部ニテ破損セルモノ甚タ多シ
倒潰ノ爲ニ死者六十五人負傷者二十人程出セリ

此建物ノ缺点トスル處ハ間仕切壁甚タ少カリシコトト柱梁以外ハ殆ント全部窓面ナル米國式工場風ノ構造ニシテコレ等ノ原因ニヨリ破損ヲ招キタルモノナリ

同工場ニ木造厚板式構造 (Mill Construction) ノモノアリタルカ何等被害無カリキ
日本電氣株式會社 (東京三田四國町)

東京電氣ト略々同様ナル構造ノ鐵筋コンクリート造ナリシカ大崩潰ヲ來シ死者九十二負傷約二百人ヲ出セリ

博文館印刷工場 (東京小石川區久堅町)

鐵筋コンクリート造建坪二百八十坪三階建ニシテ全潰セリ

當日二百人程出勤シ居タルカ死者男三十二、女八、重傷男十九、女七、其ノ他輕傷多數ナリ

此建物ノ倒潰ノ原因ヲ尋ネルニ此邊ニ溝渠アリテ其ノ沿岸ノ地盤ハ特ニ惡シク附近ノ建物ニ倒潰シタルモノ少カラサリキ又建物ハ間仕切壁無ク外部ニ窓多ク壁ノ少ナキ事ハ其ノ缺點ノ一ナルカ殊ニ二階ニ八萬貫三階ニ二萬貫ノ鉛ヲ積置セシ事ハ建物ヲ脆弱ナラシメタル大原因タラスンハアラス崩潰ハ先ツ此鉛ヲ積ミアリシ附近ヨリ始マレリト言ヘリ

崩潰ノ際先ツ階段墜落シテ階上ノ者ノ避難ニ困難ヲ來セリ、爲ニ死者ハ二階三階ニ多カリキ
崩潰ト同時ニ瓦斯ヨリ發火シタルモ直チニ瓦斯ノ元ヲ止メテ消火スルヲ得タリ

橫濱船渠會社

ペンキ工場 (煉瓦造平家四十坪) 及煉瓦造倉庫ハ半潰、煉瓦造鑛金工場ハ全潰セリ其ノ他ノモノモ燒失セルヲ以テ地震ト共ニ崩潰シタルカハ不明ナリ、火災ハ橫濱市ノ大火ノ類燒ニ因ルモノナリ
死者ハ四五十名アリシモ職工ノ多クハ食事中ニテ工場外ニ在リテ助カリタリ、死傷者ハ般渠内及ペンキ工場ノ煉瓦壁ノ崩壞ニ原因セルモノ多シ

明治製糖會社川崎工場

煉瓦造ニシテ工場ノ建物千二百二十四坪 (延坪三千九百五十二坪) 機關室百三十坪、修繕室五十二坪
工場二十六坪、倉庫七棟ニテ千五百五十五坪外ニ木造倉庫百坪アリタリ
工場ハ三階乃至五階ナリシカ其ノ大部分ハ崩潰シタルカ煉瓦造ニ連接シテ建増シセル鐵骨煉瓦造ノ

部分ハ倒潰ヲ免レタリ

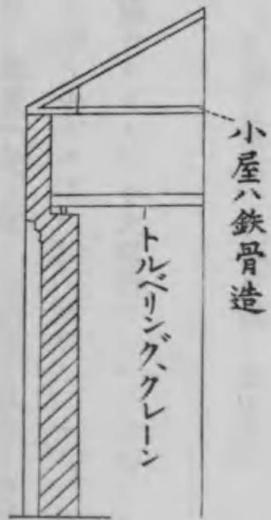
當時職工ハ百八十五人外ニ社員二十三人ナリシカ食事中ニテ工場外ニ在リテ死傷ヲ免レタルモノ多シ又工場内ニ在リシモノモ震動ト共ニ逸早ク避難スルヲ得タルモ屋外ニテ落ち來ル煉瓦ニテ死傷シタルモノ多シ

死者社員一、職工六、負傷者十一ニテ其ノ内一人ハ負傷後死亡セリ

鐵筋コンクリートノ煙突ハ倒潰シ又焙燒爐ヨリ發火シ工場ノ約三分ノ一ハ燒失セリ火焰ハ三日間ニ渡リテ燼エ續ケタリ

東京市品川發電所(南品川)

工場ハ煉瓦造ノ建物ナリシカ大部分ハ破潰セリ、建物ハ約四百坪ニシテ壁ノ上部ニ「トラベリングクレーン」ノ軌道ヲ取付ケアリ其ノ下部ハ煉瓦三枚厚ニテ其ノ外部ニ煉瓦ノ柱形アリテ比較的堅牢ナリシカ軌道ヨリ上ハ煉瓦一枚半ニテ外部ニ持出シ柱形ニテ受ケアリシカコノ上部ハ墜落セリ又切妻方面ノ壁ハ全部崩潰セリコレハ震動カコノ切妻ニ直角ニ近キ方向ヨリ來リタルニ因ルナルモ、桁行ノ方ノ壁ハ屋根ハ鐵骨生子枚葺ニテ輕キニ拘ラス「クレーン」ノ所ニテ



急ニ壁ノ厚サニ減少ヲ來セル爲上部ノ墜落ヲ見タルナリ死者五人傷者二ニシテ何レモ此建物内ニ在リテ災厄ニ遭ヒシモノナリ木造ノ食堂ニ在リシモノハ皆助カレリ

日本帆布會社(程ヶ谷)

工場三百六十三坪、事務所五十坪、倉庫六十三坪、寄宿舎四十坪、何レモ木造平家ナリシカ全部倒潰セリ

コレハ地盤甚タ惡シキコトカ最大原因ナリ

幸ヒ當日ハ休日ニテ寄宿舎ニ二十人程居タルモ一人ノ負傷者ニテ大事無キヲ得タリ

東京瓦斯電氣會社(大森入新井、不入斗)

九百十九坪ノ煉瓦造ハ全潰セリ、外ニ鐵筋コンクリート造ノ鑄物工場アリシカ倒潰セリ、コレハ鐵筋ノ量ノ甚タ少クシテ耐震的ニ缺クル處アリシニ因ルモノニテ殊ニ地盤カ田畑ヲ埋立タル處ニテ甚タ惡シカリシハ益々建物ノ破潰ヲ増大セシメタリ

死者ハ男六人、負傷者男七人ナリ

藥品及鑄物工場ヨリ發火セントセシモポンプニテ注水シテ消スヲ得タリ

大日本麥酒會社保土ヶ谷工場

間口二十間奥行十二間ノ煉瓦造五階ノ工場ハ壁厚五尺(壁ハ二列ノ中空積ミ)ノモノニテ外部ト熱

ノ遮断セル構造ナルカ三階ニ至ル迄倒潰セリ

高百二十五尺ノ鐵筋コンクリート造煙突四基中二基倒潰シ又高七十五尺ノ同構造煙突七基中三基倒潰セリコレカ爲ニ鐵筋コンクリート造亞鉛引鐵板葺製瓶檢瓶作業室ヲ破壊セリ

當時職工 男 四七三 女 九九 計 五七二

死亡職工 男 一三

負傷職工 男 一二 女 二 計 一〇四

死亡者十三名中十一名ハ清涼飲料水製造工場ノ製品工ニテ隣室ノ煉瓦建ノ壁體ノ倒潰シ來リテ集團シテ壓死セリ又製瓶工場熔解爐ノ破壊ノ爲火災ヲ起シタリ、爲ニ製瓶檢瓶作業室（鐵筋コンクリート造七百三十一坪）ハ燒失セリ

附 錄

震災ニ因ル官營工場ニ於ケル職工救濟扶助

一、罹災官營工場職工數、死傷者數、行方不明者數

官廳別	工場名	職工數		死亡者數		重傷者數		行方不明者數		
		男	女	計	男	女	計	男	女	
鐵道省	大宮工場	二,四八三	六四	二,五四六	一九	一	二〇	三三	三	
	隅田川派出所	八四八	—	八四八	—	—	—	—	—	
	大井工場	一,三三三	—	一,三三三	—	—	—	—	—	
	大井工場	—	五	五	—	—	—	—	—	
	汐留派出所	三七	—	三七	—	—	—	—	—	
	錦糸町工場	一四三	二	一四四	—	—	—	—	—	
	計	—	—	四,九三三	—	—	二〇	—	—	
	陸軍	糧秣本廠	一〇七	七	一一四	(不明)	—	(不明)	(不明)	(不明)
		造兵工廠	三,六一三	四八	三,六六一	—	—	—	—	—
		東京火藥廠	六五〇	一〇〇	七五〇	—	—	—	—	—
本十條火藥廠		—	—	—	—	—	—	—	—	
同十條火藥廠		—	—	—	—	—	—	—	—	
板十條火藥廠		一七	—	一七	—	—	—	—	—	
同十條火藥廠		—	—	—	—	—	—	—	—	
王十條火藥子廠		四九六	二五	五二一	—	—	—	—	—	
計		—	—	—	—	—	—	—	—	

内	省 藏 大			省 軍 海			省					
	計	賣局分工場	芝煙草專賣局及分工場	計	平塚火藥廠	海軍工廠	研究須賀所	築地海軍技術所	計	被服本廠	千住製絨所	同十條火藥廠
(不明)	—	六六〇	四〇〇	—	八一九	一五、二四四	一、三〇〇	—	—	五二五	四一四	一、二五七
三、九〇〇	四、九一七	二、三三三	二、四七四	〇、〇〇〇	一、〇一〇	五、二七	—	—	—	五、四六	七、九	一、五六
(不明)	—	—	八	—	四	九	—	—	(不明)	—	—	—
三	二	—	—	〇、三三	四	二、五	—	—	六	—	三	—
(不明)	—	—	—	—	七	三、五	三	—	—	二、五	—	—
五	三七	—	三	二、七	七	二、四七	三	—	〇、五	三	七	—
(不明)	—	(不明)	(不明)	—	—	八	—	—	—	三	(不明)	—
九二	二、八七	二、〇〇	三、六	—	—	八	—	—	—	—	—	—

六六

總 計	關	
	王子印刷工場	内務省東京土木出張所 千住機械工場
—	六〇〇	一五二
—	五七〇	—
四、八九五	一、一〇〇	一、五一一
—	—	—
—	—	—
—	—	—
一、八八	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
三七八	—	—
—	—	—
—	—	—
四、五三	—	—

一一 職工生活保護

海軍省所管中横須賀工廠九月六日迄出缺ニ拘ラス全額ヲ支給シ出勤者ニ特ニ五割乃至十割ノ割増ヲ行ヒ十一日以後ハ平常トシ休業ヲ命シタル職工ニハ賃金六割ヲ支給ス

平塚火藥工場ハ横須賀ト大同小異ナルモ當分ハ白米ヲ支給シ十月以後ハ賃金二割増ヲ支給ス

築地技術研究所ハ休業者ニ賃金六割ヲ支給ス

陸軍省所管ノモノニ在リテハ八日間ハ出缺ニ拘ラス全額ヲ支給シ休業ヲ命シタルモノニハ六割ヲ支給ス

鐵道省ハ九月分ハ五割増支給ス

印刷局ハ休業者ニ六割ヲ支給ス

六八
專賣局ハ藏前工場ニテハ九月分ハ出缺ニ拘ラス全給シ休業ヲ命シタル者ニモ六割ヲ支給ス
芝、淀橋工場ハ休業中全額ヲ支給セリ

三 解雇ニ關スル事項

官營工場トシテハ大體ニ於テ此ノ際震災ノ爲ニ解雇セサル方針ヲトリ
專賣局ニ於テハ極力局管轄ノ他工場ニ轉勤セシムルト共ニ工場跡片付ニ使用セリ
陸軍省ニ於テハ飯農者ニ手當ヲ支給シ其ノ他轉勤希望者ニハ其ノ手續ヲ爲シタリ
海軍省ニテモ差當リ自發的ノモノノ外解雇セス
鐵道省ニテハ復舊作業ニ從事セシム轉勤ノ外解雇セス

四 扶助ニ關スル事項

官營工場ハ凡テ共濟組合規則ニ基キ工場内ノ死傷者ヲ取扱ヒタリ
一、死亡者遺族ニ對シ
海軍省 賃金二十七箇月乃至三十箇月分ヲ支給シ他ノ名義ニテ十數圓ヲ見舞金トシテ補給ス
陸軍省 賃金九百日分ノ外別ニ九十日ヲ加給ス
專賣局 最高賃金千二百日分ヲ支給ス

印刷局 共濟組合ノ爲朝陽會ヨリ出費給料一箇年分ト二箇月分ノ葬祭料ヲ支給ス
鐵道省 賃金四箇月分乃至五箇月分ノ年金ト三箇月分ノ葬祭料ヲ支給ス

二、傷者ニ對シ

傷者ハ凡テ公費ニテ治療ヲ加ヘ傷病給與ヲ爲ス
治療ハ所屬病院又ハ他ノ病院ニテ行ヒ遺漏ナキカ如シ

五 震災當日職工ニ對シ採リタル處置

專賣局 淀橋工場ニテハ監督者指揮ノ下ニ避難セシメ人員検査ヲ行ヒタリ、藏前工場ニテモ
震災後女子ヲ廣場ニ集メ後退散セシメタリ
海軍省 築地技術研究所ハ震災後家族ヲ有スル職工ニ限り歸宅セシメタリ、横須賀工廠ハ一
旦歸宅セシメ家庭上差支ナキモノヲ再歸廠セシメタリ平塚工場モ人員点檢ヲ行ヒタ
ル上ノ所置横須賀工廠ニ同シ
鐵道省 大井工場ハ任意解散セシメ錦糸町工場ハ希望者ノミ退出セシメタリ、大宮工場ハ退

出ヲ許サス倒壊工場内死傷救護ニ全力ヲ盡シ倒壊ノ危険火災ノ危険防止ヲ行ヒタル
後退散セシメタリ

陸軍省 造兵廠、被服本廠ハ火災防止ヲ爲シタル後警戒員ヲ止メ退散セシメタリ

後編 震災ニ因ル工場ノ影響

第一 總 說

大正十二年九月一日ノ大震災ニ因リ地方工業ニ及ホシタル影響ノ範圍頗ル廣ク全國中全ク影響ナカリシハ僅カニ宮崎、鹿兒島、沖縄ノ三縣(奈良縣ハ回答未着ニ付不明)ニ過キスシテ其ノ影響ノ大部分ハ損害即チ惡影響タルコト勿論ナルモ一方震災ニ因ツテ東京又ハ横濱方面ニ於ケル各種工場ノ滅失又ハ震災地ニ於ケル罹災者應急救護ニ要スル物資ノ供給等ニ依リテ好況ヲ呈シタルモノ亦尠カラス、而シテ之ヲ其ノ影響態様ニ依リ大別スレハ惡影響即チ工場建物ノ倒潰、被損及死傷者ヲ生セシモノ、工場ノ廢止ヲナシタルモノ、休業シタルモノ、事業ヲ縮少シタルモノ、職工ヲ解雇シタルモノ及京濱地方出荷中ノ生糸其ノ他輸出絹織物其ノ他ノ輸出品ニシテ商店ノ取引未済ノモノノ燒失ニ因リ損害ヲ受ケタルモノ等ニシテ又一方好影響即チ工場ノ増設シタルモノ、工場ノ増設又ハ設備ノ増加ヲナシタルモノ、就業時間ヲ延長シタルモノ、晝夜業ヲ開始セシモノ及休日ヲ減少シタルモノ等ナリ

震災當時ニ於ケル地方金融ノ狀況ヲ觀ルニ地方ニ於ケル銀行家ニ一般ニ工業者ニ對スル資金ノ貸出シヲ極度ニ警戒シ暫ク形勢觀望ノ態度ニ出テ容易ニ貸出シヲ爲ササリシ爲地方金融界ハ極度ニ逼迫シ

其レカ爲原料又ハ燃料等ノ買入レヲ爲ス能ハサリシノミナラス職工ニ支拂フ賃金ニモ支障ヲ生シ甚シキハ米鹽ノ資ヲサヘモ得ル能ハサリシモノアリ

鐵道其ノ他ノ交通機關モ其ノ當時ハ一時杜絶ノ有様ニテ爲ニ製品又ハ原料燃料等ノ輸送ニ大ナル支障ヲ生シ其レカ爲メ止ムナク一時工場ヲ休止セシモノ多シ、又從來取引セシ京濱地方商店ノ燒失廢滅ハ地方工業家ニ大ナル打擊ヲ與ヘ其ノ當時取引ノ杜絶セシハ勿論將來再ヒ取引ヲ開始スヘキ見込立タルモノ多ク且ツ災前ノ賣掛代金ノ回收サヘモ不可能ニ陥リシモノ多ク爲ニ工場ヲ廢止セシモノ、又ハ一時休業シテ形勢ヲ觀望シ居ルモノ、箇工場ノ規模ヲ縮少シテ事業ヲ繼續スルモノ等ヲ生セリ、又工場ノ廢止、休止、縮少等ヲ爲ササリシモ一時就業時間ヲ減少シ職工ノ賃金ヲ減額シテ作業ヲ繼續シタルモノアリ、然シ乍ラスノ如キ事象モ多クハ一時的ニシテ京濱地方ニ於ケル秩序恢復スルト共ニ罹災者ノ應急救護用品又ハ復興用物資等ノ需用漸次増加シ是レ等工場幾何モナクシテ舊ニ復シツツアルモノ多シ、而シテ工場ヲ休業セシモノノ如キハ短キハ五、六日間、永キモ一、二箇月ヲ出テスシテ復舊セシモノ多シ

是等震災ノ影響ヲ受ケタル府縣ハ東京府及神奈川縣ヲ除ク以外ノモノ四十一府縣ニ達シ全國府縣ノ八割七分強ノ多キニ及フ、工場ノ廢止、休止、事業縮少及職工ノ解雇ヲナシタルモノ二十九府縣千二百九十一工場影響ヲ及ホシタル府縣ノ七一・〇%弱、京濱地方出荷中ノ商品燒失ニ因リ損害ヲ受ケタルモ

ノ二十三縣全額約二億二千萬圓五六・〇%強又好影響ヲ受ケ工場ノ新設、増設、就業時間ノ延長又ハ職工増加ヲナシタルモノ三十一府縣七百三十二工場(惡影響ヲ及ホシタルト共ニ好影響ヲ及ホシタルモノヲ含ム)ニシテ影響ヲ及ホシタル府縣ノ七三・〇%ニ達ス、就中被害ノ激甚ナリシハ震災地タル東京横濱ニ近接シ居ル埼玉、千葉、靜岡、山梨等ニシテ其ノ最モ甚タシカリシハ埼玉縣ナリ、而シテ同縣ニ於ケル被害ノ概要ハ休業セシ工場三百九十六、總數ノ三二・五%、解雇職工三百八十一人總數ノ五・六%等ニシテ其ノ外京濱地方出荷ノ燒失損害ノミニテモ二百七十萬圓ノ巨額ニ上リテ其ノ第三位ニ在リ、尙同縣ニ於ケル窯業ノ休業セシモノ比較的多ク主トシテ煉瓦工場ニシテ其ノ最大原因ハ災後一般ニ煉瓦ハ耐震建築トシテハ頗ル不適當ナリトノ見地ヨリ商人トノ取引激減シタル爲止ムナク休業シタルモノノ如シ、靜岡縣ハ同縣下小山町所在ノ富士瓦斯紡績株式會社小山工場ノ被害最モ甚タシク他ハ至ツテ輕微ナリ、山梨縣ハ休業工場三百五十一、總數ノ二八・八%ヲ算シ、尙京濱地方出荷燒失ノ損害ハ四百二十萬圓ニ上リ其ノ第二位ニ在リ、其ノ他千葉縣ニ於テ解雇職工二百三十三人ヲ算スルニ至レリ、又京濱地方出荷燒失損害ノ多大ナリシハ群馬縣ヲ第一トシ其ノ見積金額六百四十六萬五千七百圓ニ上ル、是レニ亞クハ前記山梨縣ノ四百二十萬八圓、埼玉縣ノ二百七十萬圓及福島縣ノ二百萬圓等ナリ職工解雇ノ方面ヲ觀ルニ靜岡、埼玉等ニ多數ナリシハ前記ノ如ク同地方ハ被害激甚ナリシヲ以テ工場ノ廢止、休止モ比較的多ク從テ解雇セシ職工數モ多數ナリシハ言フ俣タス、然ルニ震災ニ因ル被害

輕微ナリシ京都府ノ解雇職工數六百二十三人、總數ノ九・二%、愛知縣ノ六百八十人、總數ノ一〇・一%、福井縣ノ二百五十三人、總數ノ三・七%及富山縣ノ百六十六人、總數ノ二・五%等ノ如ク比較的多數ナリシハ是等職工ハ多ク織物(輸出絹織物)工場ノ職工ニシテ、京濱地方ニ於ケル是レ等取引商店ノ燒失等ノ爲將來取引ノ見込モ立タサリシ爲止ムナク一時工場ヲ休止又ハ事業ヲ縮少セシモノ多キニ因ルモノノ如シ、而シテ又工場ノ廢止、休止、事業縮少等ニ就テ觀ルニ工場ヲ廢止セシハ「織物工場」ヲ第一トシ工場數十八ニシテ總數ノ三四・六%ヲ算ス其ノ他ハ「事業ニ付キ概ネ五・六工場ナリ、休止工場ハ之亦「織物工場」第一ニシテ其ノ數三百三十三工場、總數ノ二七・二%ナリ、其ノ他ハ「金屬品工場」ノ二百九十六、總數ノ二四・二%及「製糸工場」ノ二百二十四工場、總數ノ一九・三%等ナリ、事業ヲ縮少セシモノモ亦「織物工場」ヲ其ノ第一トシ總數二十工場中十工場ヲ算シ實ニ五〇・〇%ヲ占ム

附記

本調査ノ府縣中千葉、靜岡、埼玉、山梨ノ四縣ニ於テハ工場及附屬建設物並設備等ノ倒潰破損又ハ燒失セシモノ及死傷者ヲ生セシモノ相當多數アルモ右ハ前編ニ詳細掲記シタルヲ以テ茲ニハ之ヲ省略シ其ノ他ノ影響ノミニ付記述スルコトトセリ

震災影響一覽表

府縣	惡影響ヲ及ホシタル府縣					好影響ヲ及ホシタル府縣				
	廢止工場數	休業工場數	事業縮少工場數	解雇職工數	京濱地方出荷燒失損害金額	新設工場數	増設工場數	擴張工場數	就業時間延長工場數	休日廢晝夜業止工場數
北海道						10				9
東 京			6	63						3
京 都			7	75						3
大 阪			3							4
神 奈 川			2							
兵 庫	3									
長 崎										
新 潟					6,213,430圓					
埼 玉					2,700,000圓					
群 馬					6,467,700圓					
千 葉	1									
茨 城			2							
栃 木										

計	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
備考	東京府及神奈川縣ハ本調査ヨリ除外ス、奈良縣ハ回答未着コ付不明、本表中ノ數字ハ回答中ノ大要ヲ記セシモノニ過キス、									

第一 惡影響

前編記述シタル以外ノ府縣ニ於テ工場及附屬建設物又ハ設備ノ倒潰、破損並死傷者ヲ生セシモノハ群馬、福島、栃木ノ三縣ニシテ其ノ大略左ノ如シ

群馬縣 被害工場九、天井壁等ノ破損セシモノ六、煙突ノ破損五基、此損害見積一萬三千六十圓
 福島縣 被害工場一、建物約七十坪破損、煙突倒潰一基、死者一、負傷者重傷二、輕傷五
 栃木縣 被害工場一、煙突倒潰二・三基、作業場寄宿倉庫等ノ壁剝落シタルモノアリ

業務別	煙突ノ破損シタルモノ		天井壁等ノ破損シタルモノ	
	工場數	損害額	工場數	損害額
製糸業	一	一、二〇〇	一	一、〇〇〇
紡績業	一	一、二〇〇	一	一、〇〇〇

群馬縣

業務別	煙突ノ破損シタルモノ		天井壁等ノ破損シタルモノ	
	工場數	損害額	工場數	損害額
織物業	一	四、〇〇〇	二	一、六〇〇
製紙業	一	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇
金屬品製造業	一	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇
硝子製造業	二	一、三六〇	一	一、二〇〇
製藥業	一	一、五〇〇	一	一、二〇〇
計	五	八、〇六〇	六	五、〇〇〇

一 廢止又ハ休業

工場ヲ廢止シ又ハ休業シタルモノ二十四府縣ヲ算シ其ノ内廢止工場ヲ生シタル府縣十一、廢止セシ工場數五十工場工業數(中分類)十六アリ而シテ其ノ内最多ク廢止工場ヲ生シタルハ兵庫ノ二十九工場ニシテ全數ノ五五・八%及福井縣ノ十一工場全數ノ二一・二%アリ其ノ他ハ各府縣トモ一、二工場宛ヲ生シタルニ過キス

休業工場ヲ生セシ府縣ハ二十四ニ亘リ休業セシ工場中工場數ノ判明シ居ルモノ織物工場三一五、金屬工場二九六、製糸工場二二四、其ノ他三十五工業(中分類)三六五工場、合計千二百工場ヲ算シ其ノ外工場數不明ノモノ栃木縣ノ染色整理工場全部、富山縣城端町羽二重工場及同縣内ノ銅器工場、製針工場

製釘工場ノ全部等ニシテ休業工場ノ最モ多キハ埼玉縣ノ三百九十六工場ニシテ全數ノ三三・三%ニ達シ之ニ次テハ山梨縣ノ三百五十一工場全數ノ二九・五%等ナリ而シテ其ノ休業日數ハ短キハ五、六日間永キハ一、二箇月間ヲ休業セシモノアルモ其ノ後漸次舊ニ復シツツアリ

(イ) 府縣別

府縣名	廢止工場數	休業工場數	備考
京 都	一	五六	
大 阪	一	七	
兵 庫	二九	三八	
長 崎	一	一一	
新 潟	一	一一	
埼 玉	一	三九六	
群 馬	一	四〇	
千 葉	一	八四	

府縣名	廢止工場數	休業工場數	備考
茨 城	一	一一	
栃 木	一	八	外ニ染色整理工場全部休業
愛 知	一	九二	
靜 岡	一	五	
山 梨	一	三五	
滋 賀	二	一	
長 野	二	一	
宮 城	一	二	
福 島	二	二六	
山 形	二	二六	
福 井	一	一五	
石 川	一	一四	
富 山	一	一七	外ニ城端羽二重工場全部及縣内全部ノ銅器、製針、製釘工場
鳥 取	一	二	
和 歌 山	一	四	

器 具		船 舶	機 械	編 組 物 物	整 染 理 色				開 始 見 込					
十日未滿	五日未滿			二十日未滿	十日未滿	開始見込	二ヶ月以上	二ヶ月未滿	三十日未滿	二十日未滿	五日未滿	十日未滿	二ヶ月以上	開始見込
四	三			一	一	一	一	二	四	三	二	一	四	二
	五日未滿	十日未滿	五日未滿								十日未滿			
	四	三	一	二							一			

三十日未滿	十五日未滿	十五日未滿	三ヶ月未滿	二ヶ月未滿	三ヶ月未滿	二ヶ月未滿	三十日未滿	五十日未滿	三十日未滿	二ヶ月以上	一ヶ月以上
一	二	一	一	一	一	一	二	一	二	一	二

織 物		製 綿		撚 絲		紡 績			
二ヶ月未滿	三十日未滿	二十日未滿	十日未滿	五日未滿	二ヶ月以上	二ヶ月未滿	五日未滿	三十日未滿	二ヶ月未滿
二	五	三	四	一〇	一	一	一	一	三
				十日未滿		五日未滿	十日以上	五日未滿	十日以上
				四	三	二	一	二	一
三十日以上	三十日未滿	十五日未滿	十日未滿	十五日未滿	三十日未滿	十五日未滿	三十日未滿	十五日未滿	三十日未滿
一	一	一	三	一	一	一	一	一	一
				三ヶ月以上	三ヶ月未滿	五ヶ月未滿	三十日未滿	十五日未滿	三十日未滿
				五	一	一	一	一〇	一〇
				二十七日間	二十日	二十日	二十日	二十日	二十日

明ニ付
記セス

畜産品	菓子	精穀	醸造	化學雜	肥料	染料	石鹼	護謨
			二十日未滿 二ヶ月未滿	二ヶ月未滿		二ヶ月未滿		二ヶ月未滿
	五日未滿		十五日未滿 二十日未滿	一	五日未滿	一	五日未滿	二
	五	三十日未滿 十日未滿	一	九	一	一	一	三十日未滿
	三ヶ月以上	一	三ヶ月以上 十五日未滿	三				一十五日未滿
	一	一	一	一				一

製藥	製油	發火物	製革	製紙	窯業	金屬
	二十日未滿		二日未滿		開始見込ナ 二ヶ月以上	二十日未滿 三十日未滿 二ヶ月以上
	一	一	一	一	一	二
	十日未滿	十五日未滿 十日未滿	五日未滿	五日未滿	二十日未滿	一
	一	一	一	一	一	一
	三ヶ月以上	三ヶ月以上 十五日未滿	十五日未滿	十五日未滿	三十五日未滿 三十日未滿	一
	一	一	一	一	一	一
				四	十	日
				月	一	

工業ノ種類	現八月末在日	休業	廢止	新設	現十一月末在
製糸業	二八	一	一		二六
紡績業	二四				二三
襪業	一				一
真綿製造業					
製綿業	二五二				二五七
織物業	二一四		三		二一四
染色整理其ノ他ノ加業	二五	一			二五
組物編物業	四五				四六
刺繡業					
雜業					
計	五八九	一五	四	二四	五九四
機械製造業	七九				七八

八九

飲食雜	印刷	木竹	羽毛	蘭蕙	玉石	雜業	電氣
	五日末滿			二ヶ月末滿		二ヶ月末滿	
	二五日末滿			三			
	五日末滿			五日末滿		五日末滿	十日末滿
	七					一	一
	三ヶ月以上					十五日末滿	十五日末滿
	一					十五日末滿	十五日末滿
						三ヶ月末滿	三ヶ月末滿
						一	一

八八

例三

工業ノ種類	事業ヲ休止シ又ハ廢止シタル工場					工場別數	廢止工場數	解雇職工數		雇入職工數
	五日前以上十日以下	十日以上二十日以下	二十日以上三十日以下	三十日以上	計			男	女	
製糸業	二	五	六	三	一	二	二	二	二	二
織物業	一〇	四	三	一	一	七	七	五	七	七
撚絲業	一	二	三	一	一	一	一	一	一	一
製綿業	一	二	四	一	一	一	一	一	一	一
染色整理其ノ他加工業	一	三	四	一	一	一	一	一	一	一
組物編物業	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
金屬品製造業	三	四	四	二	二	二	二	二	二	二
窯業	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
製革業	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一六	二四	二五	一七	一八	一七	一七	一七	一七	一七
計	一	二	三	一	一	一	一	一	一	一
計	一五	二二	二二	一六	一七	一六	一六	一六	一六	一六
計	一五	二二	二二	一六	一七	一六	一六	一六	一六	一六

九三

總計	金屬精練業	瓦斯業	電氣業	雜業	玉石牙骨介甲及角製品業	蘭荏麥稈及經木眞田業	羽毛製品業	皮革製品業	木竹蔓莖製品業	紙製品業	印刷製本業
一、八一四	一三	五	七	二九一	九二	一四	二四	四	一七	二	三八
六一	一	一	一	二	二	一	一	九	一	一	一
二九	一	一	一	一八	三	一	一	四	一	一	一
六七	一	一	一	五	一	一	一	三	一	一	一
一、七九一	一二	五	七	二七七	八七	一五	二四	一四	一〇七	二	三七

九二

工場ノ廢止及事業縮少ノ結果職工ヲ解雇セシ府縣別職工數

府縣名	解雇職工數	府縣名	解雇職工數
京都	六二三	大阪	七五
兵庫	不詳	長崎	六
新潟	八一	埼玉	三八一
群馬	二五六	千葉	二二三
茨城	一八	栃木	多少
三重	五一	愛知	六八〇
靜岡	三、四七二	山梨	四四
滋賀	一九	長野	四二
福島	一四一	福井	二五三
富山	一六六	山根	一八
廣島	三三	山口	二七
徳島	二	愛媛	一六
福岡	一二〇	大分	三

九六

例四 計 六、七六〇

事業別	解雇職工數		計數
	男	女	
織物業	二二	五六	七七
燃絲業	七	七〇	七七
染色整理其ノ他ノ加工業	一六		一六
金屬品製造業	二二		二二
窯業	一二五	五七	一八二
染料、塗料、顔料及糊料類ノ製造業	一		一
蘭苳、麥稈及經木眞田業		七	七
計	一九一	一九〇	三八一

九七

例五

職工ヲ解雇シタル工場數及職工數				群馬縣		
業務別	工場數	職工數		事由		
		非保護	保護			
織物業	一	三〇	一五四	原料不足金融梗塞ノ爲メ一時事業ヲ縮少セシニ依ル金融梗塞ノ爲メ事業ヲ縮少シ晝夜業ナリシヲ書業ノミトナス		
紡績業	一	五〇	二二二			
計	二	八〇	一七六			
			二五六			
			一八四			

例六

愛知縣ニ於ケル解雇數						
業務別	影響ヲ受ケタル工場	解雇職工		備考		
		男	女			
製糸業	一	二	八	廢止工場ノ職工不明他ニ合併		
燃絲業	一	三	一三			
製綿業	一	二	一			
織物業	三	五	二九九			
計	六	二二	三〇〇			

例七

震災ノ影響ニ依リ廢止、休止、縮少工場數及職工解雇數						
業務別	廢止	休止	縮少	計	同上解雇職工數	
					男	女
染色整理業	一	一	一	三	二六	二
窯業	一	一	一	三	二六	二
製紙業	一	一	一	三	二六	二
發火物製造業	一	一	一	三	二六	二
石鹼製造業	一	一	一	三	二六	二
人造肥料製造業	一	一	一	三	二六	二
菓子製造業	一	一	一	三	二六	二
計	六	六	六	一八	一七〇	一五

震災ノ影響ニ依リ廢止、休止、縮少工場數及職工解雇數						
業務別	廢止	休止	縮少	計	同上解雇職工數	
					男	女
製糸業	一	一	一	三	二九	三
紡績業	一	一	一	三	二九	三
計	二	二	二	六	五八	六

送荷焼失及資金缺乏
工場罹災

織物業	一	二	一	三	四〇	四八	原料暴騰、取引先焼失
組物編物業	一	一	一	一	三	四	取引先焼失
雜業雜	一	二	二	二	二	六	取引先焼失
計	一	五	二	八	八〇	七六	

一〇〇

四 生産品ノ損害

京濱地方滞荷品ニシテ灰燼ニ歸シタルモノ枚舉ニ遑アラス就中生糸及輸出絹織物其ノ他ノ焼失又ハ紛失等ニ因リ損失ヲ蒙リタルハ二十六府縣ニ及ヒ其ノ損害高ハ價額ノ判明シ居ルモノノミニテモ二千二百〇七萬七千六百十一圓ノ巨額ニ上ル其ノ外生糸百捆及二萬八千二百斤アリ尙價額數量トモニ不明ノモノ四縣アリ、而シテ是レ等損害ヲ及ホシタル府縣中損害最モ多額ナルハ群馬縣ノ六百四十六萬五千七百圓ニシテ價額ノ知レ居ルモノノ總額ノ二九%ヲ占ム、尙右ノ外比較的多額ナルハ山梨縣ノ四百二十八萬圓、一九%及埼玉縣ノ二百七十萬圓、一二%等ナリ

府縣名	生糸損害額	輸出絹織物其ノ他ノ損害額	計
新潟	六六二、三四三圓		六六二、三四三圓

埼玉	二、七〇〇、〇〇〇圓		二、七〇〇、〇〇〇圓
群馬	一、九六五、七〇〇圓	四、五〇〇、〇〇〇圓	六、四六五、七〇〇圓
栃木	一〇〇捆		一〇〇捆
愛知	(有不明)		(有不明)
静岡	(有不明)		(有不明)
山梨	二、二八〇、〇〇〇圓	二、〇〇〇、〇〇〇圓	四、二八〇、〇〇〇圓
滋賀	(有不明)		(有不明)
岐阜	八八一、〇〇〇圓		八八一、〇〇〇圓
長野	(有不明)		(有不明)
福島	二、〇〇〇、〇〇〇圓		二、〇〇〇、〇〇〇圓
岩手	七三〇、一九〇圓	二二、〇〇〇圓	七五三、一九〇圓
富山		六一、五三八圓	六一、五三八圓
鳥取	四五〇、六四〇圓	五、六〇〇圓	四五六、二四〇圓
島根	六、〇〇〇圓		六、〇〇〇圓
岡山	八二〇〇斤		八、二〇〇斤

一〇一

工場ノ増設又ハ事業ノ擴張

工業ノ種類	府		縣													
	道	北海	大阪	茨城	千葉	静岡	三重	秋田	青森	福井	石川	廣島	山和歌	山口	福岡	計
紡績業	1															1
製綿業			1													1
織物業			4													4
組編物業													3			3
機械製造業																4
金屬品製造業			8													8
器具製造業																2
窯業																4
製紙業																1
製藥業																1
製蠟業																1
計																115

合 計	府										縣									
	道	北海	大阪	茨城	千葉	静岡	三重	秋田	青森	福井	石川	廣島	山和歌	山口	福岡	計				
機械製造業																1				
金屬品製造業																3				
窯業																6				
製油業																1				
護謨製蠟業																3				
染料塗料製造業																1				
化學雜料製造業																1				
釀造業																2				
水産品製造業																1				
木竹製品製造業																3				
羽毛製品業																1				
玉石介甲製品業																1				
計																104				

計	雜業	蘭蕙業	木竹蔓莖製品業	印刷業	菓子業	染料製造業	護謄製品業
10	—	—	六	—	—	—	—
三六	—	—	一五	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
三	—	—	—	—	—	—	—
四	—	—	四	—	—	—	—
七	—	—	四	—	—	—	—
二	—	—	—	—	—	—	—
七	—	—	—	一	—	—	—
二	—	—	—	—	—	—	—
一〇	—	—	五	—	—	—	—
三	—	—	—	—	—	—	—
二	—	—	—	—	—	—	—
九八	三	—	四〇	—	—	—	一〇

一〇六

二 時間延長、夜業開始休日廢止等

好影響ヲ及ホシタル工場中ニ在リテハ製產品ノ注文激増シタル爲工場ヲ増設又ハ擴張スルニ至ラサルモ職工ヲ増加シ又就業時間ヲ延長シ又ハ職工ヲ二組ニ分チテ夜業ヲ爲シ或ハ休日廢止シテ其ノ生産能力ノ増進ヲ計リ以テ需要ニ應シタルモノアリ

就業時間ヲ延長シタルモノハ織物工場最多ク二百二十五工場ニ及ヒ總數ノ四割五分ヲ占ム之ニ次イテ木竹蔓莖(主トシテ製材)業ノ七十三工場總數ノ一割四分、製絲業ノ五十四工場總數ノ一割及製綿業ノ五十工場一割等ハ其ノ主ナルモノナリ

夜業ヲ開始シタルモノハ木竹蔓莖業(主トシテ製材)ノ十一工場總數ノ四割八分ニシテ主位ヲ占メ其ノ他ノ工業ニ在リテハ一、二工場ニ過キス

休日ヲ廢止シタルモノモ亦木竹蔓莖業第一位ニシテ八工場總數ノ三割三分、製綿業、金屬品製造業ノ各五工場總數ノ二割一分等ハ其ノ主ナルモノナリ

由是觀之今次ノ震災ニ依リ最モ好況ヲ呈シタルモノハ木竹蔓莖業(主トシテ製材業)織物業(綿織物)製綿業及護謄製品業等ニシテ之ヲ表示スレハ次ノ如シ

就業時間ヲ延長シタルモノ及休日ヲ廢止シタルモノノ事業別工場數表

工業ノ種類(中分類)	就業時間ヲ延長シタル工場數	夜業ヲ開始シタル工場數	休日ヲ廢止シタル工場數
	紡績業	—	—
製糸業	—	—	—
織物業	—	—	—
製綿業	—	—	—
護謄製品業	—	—	—
染料製造業	—	—	—
菓子業	—	—	—
印刷業	—	—	—
木竹蔓莖製品業	—	—	—
蘭蕙業	—	—	—
雜業	—	—	—
計	—	—	—

一〇七

同山梨製糸	同静岡岡織物材	同愛知織物(ガーゼ)	三重機械	計
一〇	一三八	二五	一	二
同	二八(同)	一九	一	二
一時間	二〇(不明)	二時間	二時間	
延長日數 十日末滿ノモノ 二十日末滿ノモノ		九月十六日ヨリ十月三十一日迄ノ期間 九月廿八日ヨリ十月十日迄ノ期間 十月廿三日ヨリ十月卅一日迄ノ期間 十一月十八日ヨリ十二月十八日迄ノ期間		

一一三

朽木絹織物	同千葉製器材具	群馬馬織物	同同同埼玉織物	計
二	二	四	一〇	一
三十分間	一三時間	四二時間以内	二二時間	
	一四時間半		一時間	
			二時間	
			二時間又ハ一時	
			自九月二十四日至十月二十三日ノ間 自九月二十四日至十月二十三日ノ間 自九月二十四日至十月二十三日ノ間 自九月二十四日至十月二十三日ノ間 自九月二十四日至十月二十三日ノ間	

一一二

富山製針計	石川製材計	同 同 福 同 同 井 同 同 織 計 (綿織物)	秋田機織材計	
二二	一一	九六 二四 二	四一 三〇 一一	二
二時間	二時間乃至四時間	一時間乃至二時間	二時間乃至三時間 三時間乃至四時間	

同 岩 手製 荷札製 造綿	福島織物計	宮城製材計	滋賀織物(麻帆布)計	同 同 同 山 梨製 計
一一	一一	一一	二二	五三 五二 五
同 二時間	二時間	二時間	(不明)	同 同 同 同 一時間
	十月中七日間、十二月中七日間			延長日數 三十日未満ノモノ 同 四十日未満ノモノ 同 五十日未満ノモノ 同 五十日ノモノ

福岡	愛媛	徳島	廣島
雜	製	製	製
計	計	計	計
(足袋裁縫)	綿	糸	綿
四九九	三三	七一	二二
二二	(不明)	同	同
二時間		二時間乃至三時	二日間、七日間乃至十日間

一一六

右ノ外工場數不明ノモノ左ノ如シ

兵 庫 織物、軍輜、器具、金屬、窯業、發火物、護謨、罐詰、印刷、雜等アルモ工場數不明
 新 潟 機械、製材等アルモ工場數不明
 岩 手 前記ノ外製材工場四、五工場一時的就業時間ヲ延長及休日ヲ減少セシコトアリ
 青 森 蠟燭及製材アルモ工場數不明
 和 歌 山 製綿、染色、組物編物、染色雜、機械、器具、金屬、木竹等アルモ工場數不明
 大 分 紡績、護謨等アルモ工場數不明
 夜業ヲ開始セシモノ乃休日ヲ廢止セシモノ

北 海 道	大 阪 府	長 崎 縣	愛 知 縣	靜 岡 縣
三	四	二	二	一
三	二	一	一	一
宮 城 縣	秋 田 縣	福 岡 縣	計	計
一	七	三	二	二
一	一	一	一	一
二	一	一	一	一

一一七

各種工場ニ及セル震災影響調 (好況ノ部)

自大正十二年九月一日
至同年十二月十五日

工業種別	影響工場敷	職工入數	職工解雇數	就業時間延長	工場數	職工入數		職工解雇數		就業時間延長		工場數
						男	女	男	女	男	女	
紡績業	四	九二	三〇	二、二九四	三、三六	五九	一三	一、〇〇七	一、天九	三	一、〇〇〇	一
燃糸業	三	一四	一九	一七	三六	三	一三	一〇	二	一	一	一
製綿業	五	四	一	九	九〇	二	一	三	四	三、五	一	一
織物業	五	四	六	一六	九〇	二	一	三	四	三、五	一	一
綿毛布	四	四	六	一六	九〇	二	一	三	四	三、五	一	一
其他	四	一七	一	一六	二六	二	一	三	四	三、五	一	一
組物編物業	六	九	一	六	一五	一〇	一	一〇	二	一、〇〇	一	一
機械製造業	一〇	二六	一	六	三三	六	一	三	五	二、二	一	一
器具製造業	九	一	一	六	一六	三	一	一	三	三、三	一	一

金屬製品製造業	釘其他	窯業(硝子)	製紙	發火物	製油製蠟業	製藥	護謄	石鹼蠟燭製造業	塗料顏料製造業	菓子製造業	印刷製本業	職工入數		職工解雇數		就業時間延長		工場數	
												男	女	男	女	男	女		男
其他	二五	四	一	一	四	五	四	一	三	二	一三	二	一	一	一	一	一	一	一
其他	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	四九	四	二六	六	五〇	三三	一五	一	三	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	七	二〇	四	七	七	九	三〇	二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	一〇一	一三	六	七	一三	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	三三	三	一	一	九	二	五	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	一	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	三三	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	三三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

大阪府、兵庫縣、愛知縣、埼玉縣、山梨縣、山形縣ノ六府縣ニ於ケル震災後（大正十二年九月ヨリ十一月迄ニ於ケル）ノ職工移動狀況

業種	雇入		解雇		計	雇入對スル増減	
	男	女	男	女		増	減
製糸業	五六二	三、九一〇	五六六	三、八四三	四、三五九	一一二	
紡績業	四、二八六	一三、二五〇	二、八八七	八、〇七九	一〇、九六六	五、五七〇	
燃糸業	二一六	四五三	一一一	二三四	三四五	三三三	
製綿業	三九五	三八一	一九五	一七七	三七二	四〇四	
織物業	一、四九一	五、〇六七	一、三三三	四、九六一	六、二九三	二、六五	
染色整理其ノ他ノ加工業	二二七	五〇六	二九七	一一八	四一五	三三八	
組物編物業	二五〇	五〇〇	二五七	二九九	五五六	一九四	
染織雜業	五三	一一			六五	六三	
機械製造業	八三三	六〇	七七三	四〇	八三三	八〇	
船舶車輛製造業	一、四二七	四三	一、二五七	五六	一、三二五	一五四	

業種	雇入		解雇		計	雇入對スル増減	
	男	女	男	女		増	減
器具製造業	四七八	一七九	三八九	一一三	五〇一	一五六	
金屬品製造業	一、七〇三	四二二	一、四一九	一九三	一、六三三	五二一	
窯業	一、三六四	五八六	二、〇〇四	六四三	二、六四六	六九六	
製紙業	二八六	四〇七	三六七	二八三	六五〇	二五	
製革及毛皮精製業	一		一八三		一八三	一八三	
發火物製造業	四三三	一、二七一	五〇一	一、七七一	二、二〇三	五七九	
製油製蠟業	三〇九	二六四	二二六	一八五	三二一	二六三	
製藥業	九二	三二	四〇	七五	一二五	七	
護謨製造業	一、六八七	三、二一六	九四一	一、七五八	二、六九九	二、二〇四	
石鹼及蠟燭製造業	五六	六	七六	一	七九	一七	
染料、塗料、顔料、糊料製造業	五一	四三	三三	三三	五五	三九	
人造肥料製造業	一四七	四八	二二	二九	一六〇	六五	
化學雜業	三二	三七	二七	一〇	三七	三二	
釀造業	五七三	五三	一三四	一九	一四三	四八三	
製糖業	二六八	一三	六八	一四	八二	一九九	

震災地ヨリ入込ミ職工數調					工業種類別		男女別				
織物業	撚絲業	紡績業	震災地別入込職工數		東京	神奈川	千葉	静岡	岡	計	九月末現在入込職工數
			男	女							
七	一	四	三								
三	六										
一〇	七	六	三								
九	七	六	三								

一二五

例一〇

電氣業	瓦斯業	金屬精煉業	計
四八	八	五	五八四
			三八三
			二〇〇
			一八六
			一四九
			一〇六
			八七
			七〇
			六五
			五九
			五三
			四七
			四一
			三五
			二九
			二三
			一七
			一一
			〇五

精穀製粉業	ラムネ、水、鑛泉業	菓子製造業	罐詰、瓶詰業	畜産品製造業	水産品製造業	飲食物雜業	印刷製本業	紙製品業	木竹莖莖製品業	皮革製品業	羽毛製品業	蘭荏麥稈及經木眞田業	玉石、牙骨介甲及角製品業	雜業
一五一	二〇	九三	七	四	三〇	三	七三	八	九五	一五	九	六〇	一七	八三一
五三	三六	六九	七九	一	三七	五	一七五	二六	四八	三	七	九五	二	八二
二〇三	五六	一六	一五〇	五	七	二八	九四八	三四	一四三六	一九三	一六	一五五	三〇	一六五二
九〇	一〇一	八	三	二	七	四七	三四	一六	七〇	五九		三七	二三	五九九
五〇	二五	四	一	九	六七	三二	三	四九	七〇	一七		一一	一六	四二六
一四〇	三六	一三六	六	三	一六	二四	一四九〇	六五	七六	七		一四八	三九	二一〇
六三	二五	八六	二	二	五	六〇								六二七
一七〇						八六								九

一二四

電	雜	紙	• 印	菓	精	釀	製
氣		製	刷	子	穀	造	藥
		品	製	製	製		
業	業	業	本	造	粉	業	業
男	女	男	女	男	女	男	女

元 | 一 | 一 | 六 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二

| | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |

一二七

八 | 一 | 一 | 七 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二

八 | 一 | 一 | 七 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二

製	護	窯	金	器	組	他	染	織
紙	謨		屬	具	物	色	色	物
	製		品	製	編	加	整	
業	造	業	製	造	物	工	理	業
女	男	女	男	女	男	女	男	女

| 五 | 一 | | | | 〇 | 七 | | | 四 | 五 |

| | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |

一二六

| 五 | 一 | 一 | 三 | 六 | 二 | 五 | 六 |

| 五 | | | | 一 | 三 | 六 | 二 | 五 | 四 |

第五 職工賃金騰落狀況

震災前後ニ於ケル職工賃金ノ騰落狀況ニ就テハ僅ニ大阪府ノ調査アルノミニシテ其ノ全般ヲ推スル能ハサルモ大阪府ニ於ケル八月末及十月末ノ賃金騰落ノ狀況ヲ觀ルニ八月末ノ賃金ニ比シ十月末ノ賃金ハ低落セシモノ多ク其ノ騰貴セシハ撚絲一工場ノ女工ノ八月末ハ七十五錢ナリシヲ十月末ハ八十五錢ニ十鐵騰貴組物一工場中ノ女工ノ八十錢ナリシヲ九十錢ニ十錢騰貴及金屬品工場七工場中ノ女工ノ一圓十一錢六厘ナリシヲ一圓三十一錢六厘ニ二十錢騰貴等ニシテ又男工ノ賃金ハ騰貴セシモノ殆ントナク唯僅ニ金屬品七工場中八月末二圓十五錢五厘ナリシヲ十月末ニ於テハ二圓二十一錢八厘トナリテ僅カニ六錢三厘ノ騰貴ヲ見シノミナリ其ノ他ハ窯業二工場中男二錢及塗料一工場中ノ男一錢等ナリ

低落セシモノノ中最モ多額ナルハ雜一工場中ノ男工ニシテ八月末ハ二圓七十九錢ナリシヲ十月末ハ二圓十錢即チ六十九錢ノ低落ヲ見ル、羽毛製品一工場中ノ男三十六錢、器具一工場中ノ男二十五錢及染色整理工場中ノ男女各二十錢宛ノ低落等ハ其ノ主ナルモノナリ

京都府ニ於ケル賃金騰落狀況調ハ震災當月タル九月ト前年ノ同月トノ比較ナルニ依リ震災前後ニ於ケル騰落ノ狀況ヲ知ルヲ得サルモ騰貴シタルモノ窯業女ノ二十錢、製材工場ノ男ノ二十錢、印刷製本工場ノ女ノ十九錢及製紙工場ノ男十六錢、女十七錢等ニシテ又低落シタルモノハ窯業男ノ六十錢、製

藥男ノ四十八錢及染色整理工場ノ男八十二錢等ナリ

是レヲ以テ觀ルニ震災後ニ於ケル震災地以外ノ地方職工ノ賃金ハ一般ニ稍低落セシ傾キアリシ模様

ナリ

例 一二

業 務 別		區 分		最 高		最 低		平 均	
		男	女	九 月	前 年 同 期	九 月	前 年 同 期	九 月	前 年 同 期
製 業	糸 業	女	男	一九〇〇	一九〇〇	四五〇	四五〇	一八〇	一八〇
		女	男	一五〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一三五〇	一三五〇
撚 業	絲 業	女	男	一三三〇	一三〇〇	八〇〇	八〇〇	九一三	九三〇
		女	男	一八五〇	一九二〇	一七〇	一〇〇〇	一四五八	一四七五
紡 績 業	業	女	男	二〇九二	二一三三	一一三三	一三八三	一五四九	一七五三
		女	男	一〇六一	一〇五七	六八〇	六六三	八八五	八三四

陶磁器製造		西陣織物		丹後縮緬		罐詰瓶詰業		製材業		紙製品業	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
九七〇	二八〇〇	一五〇〇	一六二〇	五〇〇	五〇〇	一〇五〇	二〇〇〇	三六〇〇	七五〇	一八五〇	一八五〇
一五〇〇	四一七〇	一五六〇	二〇〇〇	七〇〇	七〇〇	一〇〇〇	一九〇〇	三三〇〇	七五〇	一八五〇	一八五〇
五八〇	一〇〇〇	一〇三〇	一〇七〇	二〇〇	二〇〇	七〇〇	一〇〇〇	一八〇〇	五〇〇	一〇五〇	一〇五〇
五八〇	一〇〇〇	一〇三〇	一〇七〇	四〇〇	四〇〇	六五〇	一〇〇〇	一七〇〇	五〇〇	一〇五〇	一〇五〇
七三〇	一九五〇	一〇八〇	一四五〇	三五〇	三五〇	九〇〇	一六五〇	二七〇〇	六二〇	一五〇〇	一五〇〇
一〇四〇	二六三〇	一〇三〇	一五〇〇	五〇〇	五〇〇	八五〇	一五〇〇	二五〇〇	六三〇	一五〇〇	一五〇〇

一三三三

印刷製本業		釀造業		製藥業		製糸業		窯業		他染色加工業		織物業	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
二二〇〇	二六八〇		四七五〇	九〇〇	二〇〇〇	一四五〇	三三〇〇	一二〇〇	二五〇〇	二〇六〇	二五六〇	一三五〇	一五〇〇
一八五〇	二七六〇		四七五〇	八〇〇	二一〇〇	二二〇〇	三三〇〇	一四〇〇	三一〇〇	二八三〇	三三五〇	一四五〇	一六五〇
四六〇	一五三〇		三四三〇	七〇〇	一五〇〇	七五〇	九〇〇	八五〇	二〇〇〇	一三三〇	一五〇〇	七〇〇	九〇〇
四三〇	一四六〇		三四三〇	七〇〇	二二〇〇	六五〇	八〇〇	一〇〇〇	二二〇〇	一六六〇	二〇〇〇	八五〇	一〇〇〇
一三三〇	二一〇〇		四二〇〇	八〇〇	一七五〇	一二〇〇	二一〇〇	一〇〇〇	二二〇〇	一五八〇	一八〇〇	一〇二五	一二〇〇
一四〇	二一〇		二四〇〇	八〇〇	二二三〇	九三〇	一九五〇	八〇〇	二八〇〇	一九〇〇	二六二〇	一〇二五	一三三五

一三三三

震災ノ工業ニ及ホス影響調 (不況ノ部)

大阪府

工業別	工場		職工増減	八月末職工賃金		十月末職工賃金		職工賃金ノ増減	八月十月中		生産品減少ノ場合
	数	在職工数		男	女	男	女		男	女	
工業別	数	在職工数	職工増減	八月末職工賃金	十月末職工賃金	職工賃金ノ増減	八月十月中	時間	時間	生産品減少ノ場合	
燃糸	一	一三七	▲三	●七五〇	●八〇〇	●二五〇	九〇〇	九〇〇	▲三割		
織物	二	一五八〇	▲一	●九一五	●一〇〇〇	●〇八五	一〇〇〇	一〇〇〇	▲二割		
組物	一	一三二	▲二	●八〇〇	●九〇〇	●一〇〇	九〇〇	九〇〇	▲三割		
染織整理	一	三〇三	▲一	●一〇〇〇	●一〇〇〇	●〇	一〇〇〇	一〇〇〇	▲一割		
機械	三	二二天	▲三	●八〇〇	●二二〇〇	●一四〇〇	九一七	九一七	▲一割	▲一割	
器具	一	四三	▲二	●二〇〇〇	●二二〇〇	●二〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	▲二割	▲二割	
金屬品	七	四七三	▲三	●一〇一六	●二二二八	●一〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	▲一割	▲一割	
窯業	二	一八五	▲一	●七五〇	●一三七〇	●六二〇	一〇〇〇	一〇〇〇	▲一割	▲一割	

註▲印ハ減無印ハ増

(其ノ二)

震災ノ工業ニ及ホス影響調 (好況ノ部)

大阪府

工業別	工場		職工増減	八月末職工賃金		十月末職工賃金		職工賃金ノ増減	八月十月中		生産品減少ノ場合
	数	在職工数		男	女	男	女		男	女	
製薬	一	七六	▲一	●一〇〇〇	●一〇一〇	●一〇〇	九〇〇	九〇〇	▲一割		
紙製品	一	一五	▲一	●九〇〇	●一〇〇〇	●一〇〇	九〇〇	九〇〇	▲一割		
羽毛	一	二二	▲一	●二〇〇〇	●二〇〇〇	●〇	二〇〇〇	二〇〇〇	▲一割		
玉石	三	九六	▲一	●九一六	●二二二	●一三六	一〇〇〇	一〇〇〇	▲二割	▲二割	
雜ノ雜	一	六三	▲一	●二、七九〇	●二、〇〇〇	●七九〇	一〇〇〇	一〇〇〇	▲二割	▲二割	
檢料	二	一〇五	▲一	●八一五	●一、〇四六	●二三〇	一〇〇〇	一〇〇〇	▲一割	▲一割	
計	二七	一、九一〇	▲一、三六〇	●八、〇八〇	●二一、七六〇	●一三、六八〇	九、八〇〇	九、八〇〇			

註▲印ハ減無印ハ増

紙製 品	印 刷	菓 子	製 糖	化 學 雜	染 料 塗 料	石 鹼	護 謨	製 藥	窯 業	品	
										金 屬 其 他	電 線
三	二	一	二	一	二	七	七	一六	二	二	三
一四六	七四七	六九	一九八	六六	一七	二六	二六	一、四三	二	二	一、〇九七
二〇三	一八五	五三	二五	三二	一八	八五	一三	二四四	一、五八	一	二、三二
一五五	八三二	七三	一九二	八二	一九	九二	二二	一、三三	一、七四	一	一、三八一
二二二	一九四	六〇	二二	四四	二二	八四	一四	二六三	一、七	一	三、四一
九	七四	四	七	三三	三三	一四	一八	二六	一、七	一	二、八四
一〇	九	八	二	一三	四	一	一〇	一九	二七	一	一、二〇
一、六六〇	九、二八	一、八八〇	一、五五二	二、〇〇〇	一、八九一	一、五五五	一、七二〇	一、七六六	九、九六	一	一、〇七三
●九一〇	一、二三八	●九二五	●八二〇	●八四三	●九五二	●九五五	●九五九	●九六八	●九六六	一	一、〇七三
一、六六八	一、二六二	一、八九〇	一、五五二	二、〇二二	二、〇一〇	一、五五五	一、九一〇	一、八五二	一、九六	一	二、〇五五
●九一八	一、二七一	●八四〇	●八三二	●八九三	●九七〇	●九九二	一、〇〇九	●九九六	●九九六	一	一、〇八八
●〇二八	●〇二八	●四三	—	●三三	●二二	●二六	●一九二	●二九二	●二九二	一	●三五五
●〇〇八	●二六二	●四三	●〇一〇	●三三	●二〇	●二五	●〇五	●〇二八	●〇二八	一	●〇一五
一〇、〇〇〇	一、二、〇〇〇	九、五〇〇	二、四、〇〇〇	九、五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、一〇〇	九、七三	九、八三	一	八、六六
一〇、〇六二	一、二、七〇〇	一、一、五〇〇	二、四、〇〇〇	九、五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、一〇〇	九、七三	一〇、四三	一	九、三四
至三割乃	至七割乃	至三割八	至二割	至三割乃	至三割乃	至一割	至三割乃	至六割乃	至七割乃	一	至四割乃

屬	亞 鉛	アル ミ ニ ウ ム	金 ニ ツ ケ ル	器 具	船 舶	機 械	染 雜	染 織 整 理	組 物	織 物	製 綿	撚 糸
一九九	二六九	六六	七九二	七七〇	一、八九〇	六五	二一	二、四二	三六	二	一、五	
五	八五	四八	二四	一三	一三五	一四〇	二二	二、八四	三六	二	四、六	
二七三	三〇八	五五	八七二	八六	二、〇〇三	七七	三三	一、六四五	四二	二	一、七	
二	一一	五	二、三九	一三	一五四	一四三	二五	二、五三	三七	二	四、二	
七三	三九	三	七九	四六	一三	一三	二七	九、八八	三三	二	一、八	
三	二六	八	三五	—	一九	三	四二	一、一七二	三三	二	四、五	
●二、六〇〇	●二、九六二	●八、九五五	●二、〇三三	●二、八六六	●二、三三七	●一、八五〇	●一、六六七	●一、三六四	●一、六七八	一	●一、三六二	
一、〇六六	●九七七	一、一七〇	●九六六	●九六六	一、二二二	一、一五〇	●九七七	●九八〇	一、二一九	一	●九三三	
二、〇四二	三、一五六	二、三三〇	二、三三二	二、七四一	二、四八七	二、二二〇	一、七四一	一、五五四	一、八〇八	一	一、三六二	
一、〇四二	一、〇六七	一、一七五	●九七五	●九五六	一、二五二	一、〇三三	●九九九	一、二六六	一、二六六	一	●九九五	
●七五	●二九五	●三九五	●三〇〇	●一五五	●二二	●三六	●〇五四	●二六二	●二六二	一	●二〇〇	
●〇〇〇	●〇九	●〇〇五	●〇二五	—	●三七	●二八	●三三	●四七	●四七	一	●〇三五	
一六、〇〇〇	●九七五	一〇、五〇〇	九、八〇	七、六七	一〇、四〇	九、六七	一〇、八三	一〇、三三	一〇、〇〇	一	一〇、五〇	
一六、〇〇〇	一、二、七五	一〇、五〇〇	一〇、五〇	七、六七	一〇、六	一〇、六七	一〇、八三	一〇、三三	一〇、〇〇	一	一〇、五〇	
至十割乃	至七割乃	至二割乃	至二割乃	至一割乃	至三割乃	至四割乃	至四割乃	至九割乃	至七割乃	一	至二割乃	

計	金屬精煉	雜口	皮革	木竹
一八八	一	三	二	二四
一七五	七五	一〇	一三	八四
一六	六	三	一	三〇
一七〇	七〇	一三	一五	一〇五
一六	六	四	一	二七
一六	六	三	二	二九
二四	一	八	一	七
一九三	二六三	一六六	二六五	二〇六八
一九二	一〇三	八七	二八〇	一〇一〇
二〇四	三〇三	一七七	二八五	二〇九六
一〇四	一四三	九六	一	一〇四五
一四	三九〇	三二	一九〇	三六八
一四〇	四〇〇	〇八	一	〇三五
二二	八五〇	九三〇	九五〇	一〇、五〇〇
二、八	一〇、五〇	一〇、六	一〇、五〇	一三、七三
	一割	至五割	二割	一割至七步

東京市深川區安宅町五番地

印刷者 石井金之助

東京市深川區安宅町五番地

印刷所 石井印刷所

電話本所 四、一〇四番

27F4

終